

在歐米中公信

全



国立公文書館

分類

排架番号

2 A

33-6

① 285

正記

院 第一編

洋郵船の以て筆跡の上は

在茶頌の至る存候と候

郵職等横濱

出帆以素海上凡浪靜根事り

當港士氏格別之懇遇

新も之々之意分敷日之

漸之以此下當所存程華盛頓府

委細之次第略記

一 兼而表少爾務使之委任



當國政府に引合へるウリヤニスとの雇入者
 當邦船り以て國に資途仕成幸而人當陸に出張
 沙点委曲而終に上回人見ても以雇入者事
 決定仕成洋物との情ハ大久保利通侯爵博文
 大藏省に多き事乃左様正義と上下度其地當運
 之所官員 兩省も以雇入、決定仕成又兩人
 委細の多き事、以雇入
 一哈惟島巡聘の義造路明次少何ともふ却合
 事多し、而も然るも、海軍省に、後、船中
 種々デロニク氏も、設備仕成、終に、何分、中國を、陸如、以、

事、様、と、中、の、元、ふ、ら、何、方、多、張、決、究、竟、回、國、限、り、ま、く、
 使、節、の、出、派、出、し、も、多、條、に、終、結、事、業、常、務、等、其、書、東、
 生、機、写、し、備、に、以、中、外、中、朝、の、少、し、も、事、世、に、以、
 之、を、別、く、使、節、の、出、派、出、し、多、く、極、多、に、名、義、引、合、し、事、業、
 事、得、た、地、産、の、利、益、何、分、も、互、に、在、休、に、在、扱、に、及、ば、な、
 かつ、此、の、條、條、と、し、下、度、其、を、回、國、の、多、く、を、各、國、の、事、業、
 と、體、裁、も、異、に、し、る、一、事、業、故、別、義、の、條、條、と、條、條、と、
 之、に、以、て、國、事、業、の、政、令、に、上、に、一、條、に、以、て、事、業、の、方、針、を、
 以、定、め、る、に、邊、り、合、合、の、事、業、也、
 一、當、陸、在、馬、領、事、ブルツク、氏、世、に、多、年、の、功、勞、も、多、く、

日去年海郵船政古開也其素也國人當此性素
此之の黙受也國民之國者此之扱也之旁國
人取扱也此用向も多端に摸様目撃也其二月伴儀
上同人の増給に發給せざる事 辨寫に圖書東
差事墨也右に録外務省之職省に以達之る
一當此中一止國高船破船也之海洋中一漂在者他
之の必死に於柄去年洋郵船チヤイナ、生會
救られた四人之の當此に到着生命を全し給
止國に送り歸されたるものも右當の形況並及此
連の暴風激浪に郵船に巨大なるも掀揚風

是の如く船長より命令あり船中士官も自來に敢
進せしむる事あり其ホルトヤチの一人奮然船中
赤系敷人五枚を救ふ其國に難民醫師 添切
療養を受せ給へば其常事 辨寫に圖書東差
事其且月録に函に政府各所に贈揚せしむ 茲に又外
務省に以達し上を候也
一真崎長三郎トヤチの當此開店跡在ハ其素當
書体 當此博覽會に席 專名中府大属に以る物持
翻右會傍局に在り向して上沙果物を以高法を試其
開店也其の由に以望其事以今急遽閉店歸郷

了後方東系府より達し、其の意、其在、何事、嫌
疑、之、無、事、も、其、世、其、人、之、物、と、見、同、法、也、折、
於、以、至、極、着、實、正、直、と、い、ふ、に、与、存、故、乃、委、任、給、至、其、
了、地、且、高、法、節、も、遠、く、操、子、合、也、勿、り、先、心、損、失、と、及、
少、中、出、上、と、い、ふ、固、り、仕、込、方、掛、取、甚、く、頗、り、利、益、を、
見、込、と、い、ふ、に、自、守、保、家、維、存、守、在、及、其、多、を、現、揚、多、
少、損、失、と、其、事、且、体、裁、も、少、事、也、乃、固、存、と、言、ふ、
先、見、合、せ、給、時、代、人、に、中、任、せ、至、正、偏、相、上、東、系、府、に、
其、中、自、己、見、込、と、い、ふ、固、り、口、中、之、言、に、其、甚、方、中、人、に、中、法、至、
其、乃、其、方、可、以、東、系、府、に、出、法、は、其、と、言、ふ、其、高、法、節、
也、

了、其、甘、東、系、府、也、乃、引、受、而、中、に、其、事、仕、込、方、亦、
不、善、夫、其、操、方、甚、者、多、也、配、に、多、く、其、事、也、其、事、何、事、
と、い、ふ、少、年、概、と、い、ふ、也、其、
一、元、無、本、藩、岩、尾、佐、貞、と、申、若、甚、欽、多、固、也、其、事、
其、事、當、其、當、港、と、謂、番、者、其、事、人、物、も、其、事、其、事、其、事、
當、固、其、事、其、事、其、事、其、事、其、事、其、事、其、事、其、事、其、事、
當、其、事、其、事、其、事、其、事、其、事、其、事、其、事、其、事、其、事、
其、事、其、事、其、事、其、事、其、事、其、事、其、事、其、事、其、事、
一、元、彦、根、藩、武、藏、越、中、と、申、其、事、其、事、其、事、其、事、其、事、
專、務、学、習、に、所、任、會、得、其、事、其、事、其、事、其、事、其、事、

父

外務省事務
外務省事務
外務省事務
外務省事務
外務省事務
外務省事務

右の件、可成る意、外務省事務

外務省事務

外務省事務

外務省事務

外務省事務

外務省事務

正院
正院
正院

外務省事務

外務省事務

外務省事務

外務省事務

外務省事務

外務省事務

外務省事務

外務省事務

外務省事務

外務省事務

父

港日刊報も弄進むる管政府並士氏款遇極小右
と云ふ事ありて候也

一哈維爾巡船の事あり及候ありて候付デロック氏の大
副使お終之上因國限り口國右ハ使席上差並あり
議決上致生あり今便議院に建議中事あり又議院
より議決あり候中ハ存候議決あり口國中候也

一本港領事ブルック氏世世累給二千兩ノ事世世四千兩
ノ榜給ノ事ハ副使次後ノ事直ニ以書東ニ事あり
中達世存り口院ハ口達ノ事成事あり左様ハ議決あり
候也

一森中船務使ハ管國政府命令上大為有口雇入
人物ウリヤムノ事ハ今部船ヲ以口國ハ口船者口人
管國ハ為有ニ事儀祀祝権頭ト申事儀居事ト云
理射ハ口屈治ハ人材ト云ハ幸事港ニ滞在ハ多
事ハ伊薩子部ハ船屋ト引合有之ハ口合有市
右ハ委曲ハ口久保大藏卿伊薩子部ハ船屋ト引合下ハ大
藏有ハ口事ハ口事候事候事口事候事有之候也
一ス子ル口連ハ口日本ノ口口探案ハ口口口口口口
毒殺ハ口口口口口口口口口口口口口口口口口口
口口口口口口口口口口口口口口口口口口口口口口

中へ一板付通之證書及び子子不右所一フルツクハ書後
常人ハ美多中板正他ス子ハ美ハ付通見調一治多ハ以
別席中全書寫有御極公下少書至下板板

一諸番共外買上代和舞一美支古寫次便少美紙
お〜板板

一進膳品美園品一〜多ハ少美高ハ依和及書通換シ

少美斗一少美高ハ与高一板終當他美〜上ハ御書

用書一少美〜振上板有る候一書東料書五百枚

外務省美陸系書山十枚中判石皮十行系一
信本百枚山板丹政所上少〜一美〜一公ハ依和ハ

右ニ条ヲ以テ書シテ書ハル也

辛未十一月十日

渡邊 浩基
内邊 右一

外務大臣

印

西院第二編

心書狀抄上巻

聖上皇少徽隆亮 隆御とみ奉頓之玉存存也
 位深而席寧 四年後遂祝世事 自座立傳之使
 中進皇多爾去冬十二月廿二日 歸職是日 之若者方
 斯哥尼茂執當のサクラノト 到着日 可加利福九抄
 活 付抄 聽友貞接待 設之 廿四日 曉日所發 朝
 衣車也 臨臨之 於 裝至之 汽車 之 登 於 之
 葉流 轉機 通 以 自 操 古 殿 居 友 之 多 直 操 華 慶
 形 府 中 之 鼓 子 手 運 也 胆 雪 車 以 在 坊 古 有 多 務

一官後湖府ハ山中湖陰ノ僻地ニ在リ先年モルモン宗
 一書美細者付有テ考證ありて日人ニ申達書
 一哈維國歴聘ノ旨ニ付兼テ未分使リ終ニ該日人ハ
 一ハ維國ハ中函右區書ニ集テ該日人ニ付
 一東ニ該日人申言中折其意ニ基キ返書ニ答
 一官後湖府ハ山中湖陰ノ僻地ニ在リ先年モルモン宗

一官後湖府ハ山中湖陰ノ僻地ニ在リ先年モルモン宗
 一書美細者付有テ考證ありて日人ニ申達書
 一哈維國歴聘ノ旨ニ付兼テ未分使リ終ニ該日人ハ
 一ハ維國ハ中函右區書ニ集テ該日人ニ付
 一東ニ該日人申言中折其意ニ基キ返書ニ答
 一官後湖府ハ山中湖陰ノ僻地ニ在リ先年モルモン宗

徒新に和轉カ教トカ版トクハ其家トシテ一夫 新節見トク収匠ト

彼嘗研ノ宜氣初草著ヲ披キ亦毎トモ一ト今トクハ

彼嘗トキ有ヤ其古改ノ器初ノ内ハ他教ノ徒素を

辨ヤ於ノ其教ヲ跡後トクハハ暗殺者トクハトクハ

トクハ已愈當所ハ華ノ其版政府トクハ結古トクハ一軍

府ニ網初親為所トクハ至先初台初女姿トクハ

一新ノ其教トクハ一固トクハトクハ初其任者トクハトクハ

其トクハ其教トクハトクハ其教トクハ其教トクハ其教トクハ

其トクハ其教トクハトクハ其教トクハ其教トクハ其教トクハ

其トクハ其教トクハトクハ其教トクハ其教トクハ其教トクハ

少教也彼中上各少各口室夜上

奉年向日十二

西院

西本

大副使 五名

外務省第二號

第二號公信は正社に在りて先づ第一号公信中の
進歩國を以て其の副候初より其の素
素親直様並府迄由御去様より及中
御雪多様
ウタ御法臨御府に備馬由布月々大五洋船
レヤッパン号素港を看る信より必之政府に
公言して
其の存在は付早進以電信石公言當所
に公言當所より公言當所より
甲号より其の素親直様並府迄由御去様より及中
御雪多様
ツクヌオクデン進出派者少御務候宛に公言當所より
公言當所より
即裁圖より其の素親直様並府迄由御去様より及中
御雪多様

少信の多分華府の所子に法存長

中山の海商人の口宣方傳と善出方傳と方傳と

或郷助と過の口當人との口宣と成昂兩人の口宣

義隆の口宣と口宣と口宣と口宣と口宣と

一此の口宣と口宣と口宣と口宣と口宣と

口宣と口宣と口宣と口宣と口宣と口宣と

口宣と口宣と口宣と口宣と口宣と口宣と

口宣と口宣と口宣と口宣と口宣と口宣と

口宣と口宣と口宣と口宣と口宣と口宣と

口宣と口宣と口宣と口宣と口宣と口宣と

口宣と口宣と口宣と口宣と口宣と口宣と

口宣と口宣と口宣と口宣と口宣と口宣と

口宣と口宣と口宣と口宣と口宣と口宣と

口宣と口宣と口宣と口宣と口宣と口宣と

口宣と口宣と口宣と口宣と口宣と口宣と

口宣と口宣と口宣と口宣と口宣と口宣と

口宣と口宣と口宣と口宣と口宣と口宣と

口宣と口宣と口宣と口宣と口宣と口宣と

口宣と口宣と口宣と口宣と口宣と口宣と

口宣と口宣と口宣と口宣と口宣と口宣と

二院第三編

第ニ編 左平 洋部便ヲ以テ上仕候

聖上登田極盛克 降御上在恭頌之至在存候仕候

休少属寧 少事候 送祝 祈り 少事 也 降 第ニ年

便中上世通 左平 社 鉄道 阻雪 久布 控 湖府 滞 在

事 及 此 世 周 事 方 務 各 事 付 事 日 十 二 日 所

在 扱 之 積 少 事 候 事 及 在 雪 解 之 途 中 水 漲

之 敷 事 之 控 下 之 運 高 少 事 候 十 四 日 所 部 候 二 日

因 事 事 扱 日 十 七 日 于 力 府 也 事 候 一 日 在 運 高 日 所

官員之接引 之 日 府 中 所 見 揚 波 日 府 昨 年

九
止

北
正
三

河渡系四号

系五編分信二月念四到着披見少奇益益添系系

扶

聖上登四攝探克 應御との在海宮威寧其系忠悅

系係其冬任係四特而西奉候達統世より此中

傳系當政府の系物送志に云六久保利園係系係又

此系系中念中系に墨紀特評編の卷一國勢卿

兩次に終高と任明分男格で以有合由備合の掃原

中候

一物系系當地掃原系系の了世成と任系省理奉官の合卷

縁の事書す下巻

高与味 教授若菜 其の由 日本 匡徳 若菜 高与味
其親 徳長 藤原 其の由 日本 匡徳 若菜 高与味
其の由 藤原 藤原 其の由 日本 匡徳 若菜 高与味
其の由 日本 匡徳 若菜 高与味 其の由 日本 匡徳 若菜 高与味
其の由 日本 匡徳 若菜 高与味 其の由 日本 匡徳 若菜 高与味
其の由 日本 匡徳 若菜 高与味 其の由 日本 匡徳 若菜 高与味
其の由 日本 匡徳 若菜 高与味 其の由 日本 匡徳 若菜 高与味
其の由 日本 匡徳 若菜 高与味 其の由 日本 匡徳 若菜 高与味

高与味 教授若菜 其の由 日本 匡徳 若菜 高与味
其親 徳長 藤原 其の由 日本 匡徳 若菜 高与味
其の由 藤原 藤原 其の由 日本 匡徳 若菜 高与味
其の由 日本 匡徳 若菜 高与味 其の由 日本 匡徳 若菜 高与味
其の由 日本 匡徳 若菜 高与味 其の由 日本 匡徳 若菜 高与味
其の由 日本 匡徳 若菜 高与味 其の由 日本 匡徳 若菜 高与味
其の由 日本 匡徳 若菜 高与味 其の由 日本 匡徳 若菜 高与味
其の由 日本 匡徳 若菜 高与味 其の由 日本 匡徳 若菜 高与味
其の由 日本 匡徳 若菜 高与味 其の由 日本 匡徳 若菜 高与味

大正
十三年
三月

係ハ先便多勢脚多園公使ハ如逢表書東写多事分
之先便多勢脚多園公使ハ如逢表書東写多事分
之先便多勢脚多園公使ハ如逢表書東写多事分
之先便多勢脚多園公使ハ如逢表書東写多事分
之先便多勢脚多園公使ハ如逢表書東写多事分
之先便多勢脚多園公使ハ如逢表書東写多事分
之先便多勢脚多園公使ハ如逢表書東写多事分
之先便多勢脚多園公使ハ如逢表書東写多事分
之先便多勢脚多園公使ハ如逢表書東写多事分
之先便多勢脚多園公使ハ如逢表書東写多事分

心電信可類ハ進出既西書ハ存
書類ハ紙并紙類有之書
紙西書多下下書存

大副使三名

正院

西書

高心
後者當ハ能取ラント活書ヲ以テ書取右ハ必書
人物古書 西書多下下書存
後者當ハ能取ラント活書ヲ以テ書取右ハ必書
人物古書 西書多下下書存

後者當ハ能取ラント活書ヲ以テ書取右ハ必書

西院書及編

卷一 卷二 卷三 卷四 卷五 卷六 卷七 卷八 卷九 卷十 卷十一 卷十二 卷十三 卷十四 卷十五 卷十六 卷十七 卷十八 卷十九 卷二十 卷二十一 卷二十二 卷二十三 卷二十四 卷二十五 卷二十六 卷二十七 卷二十八 卷二十九 卷三十 卷三十一 卷三十二 卷三十三 卷三十四 卷三十五 卷三十六 卷三十七 卷三十八 卷三十九 卷四十 卷四十一 卷四十二 卷四十三 卷四十四 卷四十五 卷四十六 卷四十七 卷四十八 卷四十九 卷五十 卷五十一 卷五十二 卷五十三 卷五十四 卷五十五 卷五十六 卷五十七 卷五十八 卷五十九 卷六十 卷六十一 卷六十二 卷六十三 卷六十四 卷六十五 卷六十六 卷六十七 卷六十八 卷六十九 卷七十 卷七十一 卷七十二 卷七十三 卷七十四 卷七十五 卷七十六 卷七十七 卷七十八 卷七十九 卷八十 卷八十一 卷八十二 卷八十三 卷八十四 卷八十五 卷八十六 卷八十七 卷八十八 卷八十九 卷九十 卷九十一 卷九十二 卷九十三 卷九十四 卷九十五 卷九十六 卷九十七 卷九十八 卷九十九 卷一百

新編 卷一 卷二 卷三 卷四 卷五 卷六 卷七 卷八 卷九 卷十 卷十一 卷十二 卷十三 卷十四 卷十五 卷十六 卷十七 卷十八 卷十九 卷二十 卷二十一 卷二十二 卷二十三 卷二十四 卷二十五 卷二十六 卷二十七 卷二十八 卷二十九 卷三十 卷三十一 卷三十二 卷三十三 卷三十四 卷三十五 卷三十六 卷三十七 卷三十八 卷三十九 卷四十 卷四十一 卷四十二 卷四十三 卷四十四 卷四十五 卷四十六 卷四十七 卷四十八 卷四十九 卷五十 卷五十一 卷五十二 卷五十三 卷五十四 卷五十五 卷五十六 卷五十七 卷五十八 卷五十九 卷六十 卷六十一 卷六十二 卷六十三 卷六十四 卷六十五 卷六十六 卷六十七 卷六十八 卷六十九 卷七十 卷七十一 卷七十二 卷七十三 卷七十四 卷七十五 卷七十六 卷七十七 卷七十八 卷七十九 卷八十 卷八十一 卷八十二 卷八十三 卷八十四 卷八十五 卷八十六 卷八十七 卷八十八 卷八十九 卷九十 卷九十一 卷九十二 卷九十三 卷九十四 卷九十五 卷九十六 卷九十七 卷九十八 卷九十九 卷一百

大正
 西院書及編

員人名目及法章程亦一書類以差紙五章程亦ハ
進ハ以釐正ハ了スルニ致委細願兼仕也

一 大嘗會豊原席會夫ハ大典無滿ハハ海士庶歡欣
ニ余ハ平ニ象世少クハ遠頌仕也

一 横濱賀賀知事決可 以幸兵海軍操練 天覽も無
滞ハハ海士庶歡欣ハ新岁席等も祀載海方多ク

一 噴ノ稱賛仕長少クハ以座也
一 法園系仍多ニ勢中一々々々付控要機ニ取扱

一 以和熟ニ費也斗ハ度方伊達宗城建後ニ致正
採用ハ以急合一ハ及方兼多仕也

一 相鮮國ハ長為宗ニ宣スル改定布告亦取右書東

一 写ス法便也一ハ多クハ方昂貴ニ報公信多ク在写を
も為シハ少ク金振一ニ兼多仕也

一 大使了事務取扱也ハ官員少ク兼兼多仕也

一 第一報中當國在為森少爾勢使所為名和及一
既中報ハ付少務省見込ニ付スル也一也兼兼多

一 右ハ先便中進ハ多通控世方在ハ爾勢使中決夫ハハ
海海士庶也

一 月法省以刑而書ニ由一兼多安心仕也
一 第四号中一ハ若未港安着ハ電報也修也

後書より西蔵を治す事其意甚重なり

候所更細細 案從之 然其作 西蔵を治す事其意甚重なり

委曲甚多 惟其意之 亦重なり 此情も亦重なり

置るに 自他使名 亦重なり 其意之 亦重なり

然其意 亦重なり 惟其意 亦重なり

列強長海 固無如 亦重なり 其意之 亦重なり

義至大 之際 心仕 亦重なり 其意之 亦重なり

帝造祀 之儀 亦重なり 其意之 亦重なり

其意 亦重なり 其意之 亦重なり

一 爲富也 固汝 赴任 回藩 儀も 亦重なり 其意之 亦重なり

其意 亦重なり 其意之 亦重なり

一 千石 亦重なり 惟也 府也 亦重なり 其意之 亦重なり

右 亦重なり 亦重なり 亦重なり 亦重なり

亦重なり 亦重なり 亦重なり 亦重なり

亦重なり 亦重なり 亦重なり 亦重なり

一 亦重なり 亦重なり 亦重なり 亦重なり

亦重なり 亦重なり 亦重なり 亦重なり

一 亦重なり 亦重なり 亦重なり 亦重なり

亦重なり 亦重なり 亦重なり 亦重なり

亦重なり 亦重なり

一 皇太子御幼少の事も悔悟して、八月廿九日、
少帝、皇太子の御幼少の事も悔悟して、八月廿九日、

一 公使の事も、御幼少の事も悔悟して、八月廿九日、
少帝、皇太子の御幼少の事も悔悟して、八月廿九日、

一 當地の事も、御幼少の事も悔悟して、八月廿九日、
少帝、皇太子の御幼少の事も悔悟して、八月廿九日、

一 倭使の事も、御幼少の事も悔悟して、八月廿九日、
少帝、皇太子の御幼少の事も悔悟して、八月廿九日、

一 當國到着の事も、御幼少の事も悔悟して、八月廿九日、
少帝、皇太子の御幼少の事も悔悟して、八月廿九日、

有鐘夕以別帝... 考覽... 漢... 後...

一... 二... 三... 四... 五...

一... 二... 三... 四... 五...

一... 二... 三... 四... 五...

山...

...

...

...

...

...

...

西院券之紙

甲日廿七、素港開棹、又波、平洋、郵船、便、以、海、路

上、紙

皇、上、皇、后、御、臨、幸、在、臨、御、遠、年、奉、賀、古、政府

考、信、益、以、加、精、以、奉、饗、加、額、在、在、古、次、越、後、始、以、以

考、矣、在、在、古、乃、以、故、心、了、了、下、紙

一、先、便、以、以、古、日、大、為、少、福、長、附、屬、一、同、到、着、素、港、

於、以、以、用、之、之、、教、の、海、高、形、之、、世、程、新、知、免、之、、

書、府、之、為、着、右、使、命、之、、教、も、委、細、順、當、法、古、古、人

為、も、今、暫、之、、當、府、下、常、番、之、、積、之、、以、中、紙

三院系公解

承平元年閏九月平海軍船使

明治五年壬午五月廿七日

板本京位聖東

以書世傳世道先以

聖上登四極燿是日在 降御恭候

聖德乃二聖書所及中松蓋感皇恩當於二十日奉

海港以爲和同世古昔所至至矣於承平十九年

而通自世間物類之五國書以爲使然軍條物是也書

系之御書其有條四國而一新語也夫之承平

今觀之其條物蓋而翻使之使語在承平以採剛

之條物其條物蓋而翻使之使語在承平以採剛

政府之務也。其要則有五。一曰法。二曰禮。三曰義。四曰智。五曰信。此五者。政府之綱也。綱既立。則目可張。目既張。則事可成。事可成。則民可安。民可安。則國可治。此政府之要也。

全權四等。一曰。二曰。三曰。四曰。此四等。政府之權也。權既立。則事可成。事可成。則民可安。民可安。則國可治。此政府之要也。

庶以乘幅。乃滋故。庶以乘幅。乃滋故。庶以乘幅。乃滋故。庶以乘幅。乃滋故。

一曰。二曰。三曰。四曰。五曰。六曰。七曰。八曰。九曰。十曰。十一曰。十二曰。十三曰。十四曰。十五曰。十六曰。十七曰。十八曰。十九曰。二十曰。二十一曰。二十二曰。二十三曰。二十四曰。二十五曰。二十六曰。二十七曰。二十八曰。二十九曰。三十曰。三十一曰。三十二曰。三十三曰。三十四曰。三十五曰。三十六曰。三十七曰。三十八曰。三十九曰。四十曰。四十一曰。四十二曰。四十三曰。四十四曰。四十五曰。四十六曰。四十七曰。四十八曰。四十九曰。五十曰。

一曰。二曰。三曰。四曰。五曰。六曰。七曰。八曰。九曰。十曰。十一曰。十二曰。十三曰。十四曰。十五曰。十六曰。十七曰。十八曰。十九曰。二十曰。二十一曰。二十二曰。二十三曰。二十四曰。二十五曰。二十六曰。二十七曰。二十八曰。二十九曰。三十曰。三十一曰。三十二曰。三十三曰。三十四曰。三十五曰。三十六曰。三十七曰。三十八曰。三十九曰。四十曰。四十一曰。四十二曰。四十三曰。四十四曰。四十五曰。四十六曰。四十七曰。四十八曰。四十九曰。五十曰。

一曰。二曰。三曰。四曰。五曰。六曰。七曰。八曰。九曰。十曰。十一曰。十二曰。十三曰。十四曰。十五曰。十六曰。十七曰。十八曰。十九曰。二十曰。二十一曰。二十二曰。二十三曰。二十四曰。二十五曰。二十六曰。二十七曰。二十八曰。二十九曰。三十曰。三十一曰。三十二曰。三十三曰。三十四曰。三十五曰。三十六曰。三十七曰。三十八曰。三十九曰。四十曰。四十一曰。四十二曰。四十三曰。四十四曰。四十五曰。四十六曰。四十七曰。四十八曰。四十九曰。五十曰。

一曰。二曰。三曰。四曰。五曰。六曰。七曰。八曰。九曰。十曰。十一曰。十二曰。十三曰。十四曰。十五曰。十六曰。十七曰。十八曰。十九曰。二十曰。二十一曰。二十二曰。二十三曰。二十四曰。二十五曰。二十六曰。二十七曰。二十八曰。二十九曰。三十曰。三十一曰。三十二曰。三十三曰。三十四曰。三十五曰。三十六曰。三十七曰。三十八曰。三十九曰。四十曰。四十一曰。四十二曰。四十三曰。四十四曰。四十五曰。四十六曰。四十七曰。四十八曰。四十九曰。五十曰。

一曰。二曰。三曰。四曰。五曰。六曰。七曰。八曰。九曰。十曰。十一曰。十二曰。十三曰。十四曰。十五曰。十六曰。十七曰。十八曰。十九曰。二十曰。二十一曰。二十二曰。二十三曰。二十四曰。二十五曰。二十六曰。二十七曰。二十八曰。二十九曰。三十曰。三十一曰。三十二曰。三十三曰。三十四曰。三十五曰。三十六曰。三十七曰。三十八曰。三十九曰。四十曰。四十一曰。四十二曰。四十三曰。四十四曰。四十五曰。四十六曰。四十七曰。四十八曰。四十九曰。五十曰。

一曰。二曰。三曰。四曰。五曰。六曰。七曰。八曰。九曰。十曰。十一曰。十二曰。十三曰。十四曰。十五曰。十六曰。十七曰。十八曰。十九曰。二十曰。二十一曰。二十二曰。二十三曰。二十四曰。二十五曰。二十六曰。二十七曰。二十八曰。二十九曰。三十曰。三十一曰。三十二曰。三十三曰。三十四曰。三十五曰。三十六曰。三十七曰。三十八曰。三十九曰。四十曰。四十一曰。四十二曰。四十三曰。四十四曰。四十五曰。四十六曰。四十七曰。四十八曰。四十九曰。五十曰。

故權

一 今後國憲修補に於て條被裁互に其國律に於て
多量國法に裁裁に於て其法に於て其國律に見出
體ありと思ふべき所あり大に趣許し多し其法に於て
個人より公債に心懸政府に於て相繼修補ありあり
存ありて個人に於て論議に於て其相繼のより其所至
之於て順より其心懸修補に於て其法に於て其國律
體多き其國に於て其法に於て其國律に於て其國律
之修補修補

一 聖徳太子の御歴に於て其國律に於て其國律
若し其法に於て其國律に於て其國律に於て其國律

大倭 宗倉里視
副倭 赤戸孝丸
副倭 山内尚芳

二 院

心法

外務部紀 〇〇〇〇信 第三号

第〇月〇日 閣下 郵船使

去〇月〇日 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇
〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇
〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇

〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇
〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇
〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇

〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇
〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇
〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇

人多見臨見此中在當修慈者時之五之四之
當時當國之國勢御也不在昭後曰天保府之堂
二條史之抄中り之抄 天保後

保羅多修兩別儀姓西羅巴 三奈以 三多 少何其多
言の電信也石以石寄一抄在 天保一 二 三 抄後

茶用多 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

佛抄卷第 芳也世 當務 匠上 表 卷 廿 四 中 旬 節 便 抄 之
之 佛 國 三 聖 終 也 抄 卷 廿 四 中 旬 節 便 抄 之

三 卷 第 二 卷 抄 卷 廿 四 中 旬 節 便 抄 之 抄 卷 廿 四 中 旬 節 便 抄 之

保 朝 子 世 昔 年 抄 卷 廿 四 中 旬 節 便 抄 之 抄 卷 廿 四 中 旬 節 便 抄 之

八 卷 第 一 卷 抄 卷 廿 四 中 旬 節 便 抄 之 抄 卷 廿 四 中 旬 節 便 抄 之

聖 帝 四 條 聖 子 抄 卷 廿 四 中 旬 節 便 抄 之 抄 卷 廿 四 中 旬 節 便 抄 之

四 回 聖 帝 身 人 抄 卷 廿 四 中 旬 節 便 抄 之 抄 卷 廿 四 中 旬 節 便 抄 之

知 聖 御 子 抄 卷 廿 四 中 旬 節 便 抄 之 抄 卷 廿 四 中 旬 節 便 抄 之

在 中 世 後 也 抄 卷 廿 四 中 旬 節 便 抄 之 抄 卷 廿 四 中 旬 節 便 抄 之

聖 帝 四 條 聖 子

抄 卷 廿 四 中 旬 節 便 抄 之

西 條

源 迎 洪 基

西院第九編

五月十日用帆左平部船便

明治五年壬午六月十日

於信重東

以書狀送致上皇先臣

聖上蓋以極深先上之在 降御座之奉賀賀賀相
 奉國之於之奉事務之先便首以願 在之於之奉
 後系之於之奉事務之先便首以願 在之於之奉
 尚書も今以御府之政務之由也リ 其奉事多分
 今以御府之政務之由也リ 其奉事多分
 早途以之奉事務之先便首以願 在之於之奉

大久保利通 存在博文 寺高 宗高 宗高 宗高

大正

明令之朝未分海流一到着之越以傳信使中
後母方之出方之也一自再結之思を前一其母之好公令
相田院 在奉報之越之廿七分中之夫當府ト安着
了後之之上之爲ト上國內之情実 兼之腐堂ト口決議
ホ之也 兼各仕所之其之江澄之在區け次使之
詳御 澄之之極報之口宿之ト上之

森少歩務使見之速之管之廿令使委曲ト上之
先使中上之管之幸以兩副使幸島ト不之奉着之管
之使乃之在田人トホトホ少合セ之之上ト上之
了使之少務少紀渡也洪基二等書之友之返務仰朝

仕方先月也之 以書之而願出之乃一自也終之上
月也之 以之之形之通了之條中渡即之當邦和
便之之仰朝之仕方是也之 澄之極之并之當也
之情実ホ之自人 委由也之在乃爲之自人
少之角ト下之在右ト之江之之少之少之

大使 岩倉具親
副使 本戸孝元
副使 山口尚芳

正院

正体

予白尔後電信を以て往復を知りて之を不致分
一日本終之上暗部市役多昂と後也少記を以て
是出カレ

第十編

明治五年壬午六月十日

從米京話聖東

第十号第十年編之公信佛國より市之寺の二話年并世

一編之公信九月一日の落手任後失以

皇上一の御帰美とる 降御 一國內年程遠、其恭賀

長切大久保存齋兩刻使寺高と一編務使之行并日

乃、一編業方海港、若船今朝無実當府を若舟

早速一國內の形勢より其等一使席等一以決議通

一業系任昂、兩刻使の政府より一所與とる即ち改

一、一國書其全權と委任状、其々領事任後今般

之費之甘白之西院之各任清省之御輔君之方古賛
成之方之依り出採用の度其費の書方之為除之遙
案仕表

右之西制使當地を經て後より今日迄彼處之權
根及條約を結ぶ事之付懸思ひ多し其利害之各
境并將來使節之り進退之辨り目今豫圖
仕表次第柄取^序を逐つて尤も上表

當之り下旬西制使を程々後兼多歩合 翌日
通之世方之條約之營業を在船三月十五日發
之席之を海國之務尚書之如渡也交り思

米國政府之方アラバマ領を重て余の付英國政府
の儀備大之葛藤を生じ其折柄を付鬼角墓之
運之の事之亦中世方之亦其情實を義之仕表
多ありれハ強多催候も尚 亦中其修之由過
也

四月廿二日 秘國 之り之傳信便を得多あり其是ハ甲
方之附之太政大臣殿之り之公信會同條約之地
全權並出方を米國政府之り之後との事也之体
世會同之地之西洲中其地を下し之、全權を派
出する海之米國之務尚書ハ之を無差之事也

之ハ乃ク保任爲副使を叙し其ノ在任時保任ノ
國務尚書ニ由テ之ヲ尚書トシテ之ヲ叙スル也

且今條約條約ノ涉リ案中ニ之を中絶スルハ條約

ノ際多クハ其類々々其後案々々ハ之々々々爲鬼ノ用

リ活便々々詳細々信板を以テ之上々々會合々々中々

衆議一決々々其條々善案也

五月二日國務尚書二人會々々帝被方々々其見以之

其認長條約善案を呈出シ世個条中一被母之條

款も之々々々其旨を後回々々議案々々論議々々及

方中迷々々々夫々々々其の善案を懸談仕々々々往

々我請求期望々々々々其の善案を懸談仕々々々往

善案を呈出シ其旨を後回々々議案々々論議々々及

方中迷々々々夫々々々其の善案を懸談仕々々々往

々我請求期望々々々々其の善案を懸談仕々々々往

善案を呈出シ其旨を後回々々議案々々論議々々及

方中迷々々々夫々々々其の善案を懸談仕々々々往

々我請求期望々々々々其の善案を懸談仕々々々往

善案を呈出シ其旨を後回々々議案々々論議々々及

方中迷々々々夫々々々其の善案を懸談仕々々々往

々我請求期望々々々々其の善案を懸談仕々々々往

大

節抄方より改正せる草案を尚書より中後

當二月十年活聖東國勢省に於て尚書より南會及

ハ多交西洲會議之他ハ條約全權之者在派出

此後大統領之言上被多交不同表、後呂艦ハ口断

中ハ知照之兩副使ハ以活聖相以着之善之義及

此後直轄ハ中後多之當府之條約ハ其結ハ此

吾即以決答亦相多古中交

今朝之字兩副使表着之付兼之亦論之決する

多交以之亦終ハ多一午活三字具視孝允尚書

國務尚書ハ而會愈當府に於てハ條約ハ其

結多るハ決答之及中後即ハ列冊に接筆記り

をせり

長素東議之得する多ハ會同條約を以て良法ハ

りより各自條約を以て亦亦ありとせり其理を

茲に概論せん、試ニ美國條約、據りて一市上其世

三条、他國より亦條約する、殊に其同條美國に及る

多一多條あり又其義世三条と云ふ千七百二十年第七

月日後ハ其條約を改正する多ハ其同條ありたり

此の時多其條約ハ其日限活多令ハ廢止ハ其現正

其條約ハ其多者ハ亦條約ハ其日限活多令ハ廢止ハ其現正

大正

多々更に箇條を附 招議せざるも既に生じて現存
すべし其勢多し又當然ありと存在は於此
併合の米國と十分の條約を結ぶ米國よりも
若干の權利を我國に附与し我國よりも又若干
の殊典を米國と与し 玆約を極く後米國政府と
交渉に在りて其席一着し十分の協議を遂げざるも
少何の如く先づ舊約を修訂し現存の多し一
而して我國と新の米國と与えざる殊典を
挿し米國に何れをせざるを以て少何の如く
之条より其を約すれり又米國よりハ米國同

挿し若干の權利を我國に附与せざるも
不苦長き条約、其の約束をこれより其條
結盟の國にも皆日親の条約ある如く其を
推し之を有る條約する事既に此世に於てハ各自
條約と一挙一動を誤る時多し其條約國
殊典を諸米國に與え其途を其報を以て其方
法に及ぶに權利ハ吃後これを以て其條約を
約束するに是を條約するものありこれ各自
の條約を結ぶ事不可とす乃理り

相會同條約之方式之全皮おきる所の各國政府
之程度おきりて一線をおき及ひ世に存し得る程に報
雅しきりぬるべきは各國之全権等も互に中肯
酌する所也也ぬるべきは結局おきりて請求を涉
りしや愛しぬるべきは殊更各國之權利に備へ
代りしや可なり殊曲特例にぬきりて同時一般上許
可するべきに似たり匡にぬるべきは心もぬるべきは會
同條約の最良法也中肯にぬる
甚多の世會同條約にぬる全権人成其會後其他
ぬるべきは既に各國政府にぬるぬる然不兼多に決る

五之條約を美國政府出りて日横に全権をぬる一とす

万に存す此条の條約は各國政府にぬる全権をぬる一とす

美米之兩國の和國との貿易に於ては關係何る

此國ある、今その二國より全権を出しぬるは會後

に地は滿洲にぬる所をぬるに諸政府に必らずは諸國色

諾法なり、乃ち及ばざるは自ら義下持にぬる諸國色

ハ之を承諾し全権を出しぬるは亦た是矣佛日ぬる

政府より出さるべきは全權會議に於てぬるに

先の會後條約にぬるは實に實地にぬるは行は

に存す

於世然考仕多事會後條約之舉不之仍協合之必何
 論一其方之如何之至要するに今度海外之各
 國之條約を在るに結ぶるに新使節一に於て歸朝の上
 秘國之會因條約之舉を起す方上策三つあり
 先ず一は國之條約を多し秘國之條約も併して之を
 一に之を今日之に不都合を醸成すに併して專一
 目的の條約を衆議を以て之を會後之舉を以て
 以上之條約を歸朝の上秘國之條約を治定の一に
 秘國之條約を先づ秘國之條約を結ぶに決意を在
 其折柄兩副使が歸朝も到着し其不不致令相お

澄海一多切に條約を及ばざるに付今度新策
 一に委任状に秘國國務尚書を更へて不不示四國
 書も勿論呈出せし由の大統領の嘆息の獨見を
 秘國早遣當國参事に見しに四座は是に英佛を
 初より一政涉に諸政府も之も新使節一に於て數日
 之を秘國に滞在せしに之を控へしに秘國に於て
 懷至るに秘國の風俗人も之に加之英法國之議院も
 之を聞て政府の人々も其後之都府を去りて可
 其名を以て名に倫敦に参着すに於て祖也之を念當國を
 棄輒に積る也

英園着より上は是の如く之を越え其の紀聘問を修め
考案を乞ふを主務とする一は園書も使席を
程前より満しお集むるを御用なり若し英園
政府より條約を協中諒むるに違ふは會談を
主張し事一なり全權委任状を見れば申立
しお集むる會談より不義なる上は世方より各自
の條約の不義をせり張り其政府の考案を以て
之より詳細の上は園と之の全權を引受再議更
正し諒むる及びいなり方終り一なり此を以て兩副使再
渡英園公使より渡お集むる事務御觸るる

少書指申しは招儀の上便り地と有るは其の決
り各自の条約にも是の如く取結するは實に多し
其且全權を共興し或は分興するとの文を彼方より
論及仕るるも是又使席を各所へ分配するものとす
以今も世全權ハ五人に共興する而已とす
然し其も分興する者なきは世内を人可或は教人をも
病むる外に在障し其席に多しとも其席に
あり美支を以て其の慮りし新くハ西書載は
為成多ありしに在傍より其之を概論するは若くは
中上世殊典を他國に評するは世園に評す

一、少、み、了、す、り、し、し、今、り、の、美、文、を、生、し、一、兩、副、
 使、者、一、等、に、全、權、を、任、命、す、る、も、其、実、効、無、し、也、
 の、と、其、實、は、様、に、次、女、を、進、後、に、使、者、一、に、決、し、り、度、に、
 亦、最、に、損、に、傍、觀、に、難、境、も、有、り、し、故、に、今、日、に、
 飛、騫、と、い、は、僅、に、使、者、一、身、上、に、榮、辱、の、之、を、顧、み、し、
 確、中、に、し、會、議、條、約、の、口、頭、を、奉、還、し、し、口、頭、之、
 少、初、令、を、謀、る、を、今、日、に、右、損、に、決、議、に、及、び、
 兩、副、使、と、も、亦、終、に、上、は、定、む、仕、事、に、口、頭、に、
 世、情、實、篤、中、に、通、解、し、し、多、國、の、使、者、も、何、損、に、
 其、中、に、亦、中、に、條、約、の、事、に、八、都、の、使、者、の、亦、任、に、亦、

一、其、他、の、海、外、會、議、を、或、し、一、副、使、と、上、新、國、と、
 危、全、に、使、者、一、之、見、込、に、歸、す、し、し、口、頭、亦、亦、使、者、
 一、歸、朝、す、る、に、一、向、に、亦、亦、合、意、し、一、様、使、者、を、存、在、し、
 右、之、見、込、に、し、し、亦、亦、多、國、を、進、歴、に、累、初、に、見、込、
 通、り、多、國、府、に、經、り、し、轉、國、に、朝、臣、孫、國、を、視、し、考、
 業、を、乞、ひ、し、て、歸、朝、し、上、に、條、約、を、轉、國、に、持、り、
 多、國、全、權、を、引、受、給、事、に、奉、還、し、し、亦、亦、亦、亦、
 亦、亦、之、次、亦、亦、柄、に、治、定、し、し、一、亦、亦、亦、亦、亦、亦、
 亦、亦、亦、亦、一、亦、亦、亦、亦、亦、亦、亦、亦、亦、亦、亦、亦、
 亦、亦、亦、亦、一、亦、亦、亦、亦、亦、亦、亦、亦、亦、亦、亦、亦、

石之島玉急可沿少美少社口座多
 是ー口座在板仕女
 向後と拘匠仕女と多々し其後と長官既沙と都合
 ハ控美園到着と上洋物、口報分可如上左候口兼
 奉うと口座向後と口座候数少都と既沙と向け口兼
 是ー口座在板仕女

大使 岩倉具視
 副使 木戸孝元

目 大久保利通
 目 伊藤博文
 目 山口素芳
 三原大政 参居殿

参議

外務卿輔

御中

頁十七

明治五年壬申七月一日 長波士教

東西兩洋に郵便を以て日差就古紙五第十三号十四
号十六号十七号廿七号に諸公信當六日十四日二十日
迄の間、陸續と申達して、拜見の中、就一件に
至一紙を仕立先以

聖上皇太后様、陛下、克く在り、五月廿五日、
御宇、御上、名西南、海岸、冷い諸島、
是、四、幸、との、在、多、の、実、を、
全、國、の、形、勢、海、路、の、風、土、を、
御、親、視、と、御、奉、
御、覽、

琴原を暫く恒しるる工を振興する

重慶中より觀望を屬する事あり了方不多に

以て終月ありては當國之新定を記す之を書

載し奉る事頗實に海外を年餘に及ぶ所ありては

不々々府殿にお光りては遠想ありては海濱

平穩暇風常り御程に奉候し頃日に正安恭

々々少候 京に在りては恭賀候

當國政府より都合條約終結候事あり前途

目的等より奉り候事あり信より話至東亞程

為り詳細に止せり候事あり候事あり候事あり

十九日十二字噴乞とて白殿に移り大統領は

湯見仕即ち多事之通り呈しお渡り候事あり

是れ相より候事あり午活より話至東亞を奉り

日後アヒレデルノイヤに廿五日夜新船あり候事あり

相當皮士教は安着たりて相郵船より海上に

十二三日より英國に到着し積り候事あり

世隆多所市民に待遇御意あり候事あり

泥を程り候事あり 累日記より候事あり

一寺島より候事あり廿五日午活より新船あり

郵船より候事あり

大正

一 貴少而務使ハ條約條約條約
 日以命令其先便中上事通一使席若途
 之目的を以て其先便中上事通一使席若途
 一 貴少而務使ハ條約條約條約
 日以命令其先便中上事通一使席若途
 之目的を以て其先便中上事通一使席若途
 一 貴少而務使ハ條約條約條約
 日以命令其先便中上事通一使席若途
 之目的を以て其先便中上事通一使席若途
 一 貴少而務使ハ條約條約條約
 日以命令其先便中上事通一使席若途
 之目的を以て其先便中上事通一使席若途

二書事紀官上免

長野桂二郎

一 貴少而務使ハ條約條約條約
 日以命令其先便中上事通一使席若途
 之目的を以て其先便中上事通一使席若途
 一 貴少而務使ハ條約條約條約
 日以命令其先便中上事通一使席若途
 之目的を以て其先便中上事通一使席若途
 一 貴少而務使ハ條約條約條約
 日以命令其先便中上事通一使席若途
 之目的を以て其先便中上事通一使席若途
 一 貴少而務使ハ條約條約條約
 日以命令其先便中上事通一使席若途
 之目的を以て其先便中上事通一使席若途

三書事紀官上免

長野桂二郎

大藏理事官上免

川崎寛堂

大藏理事官上免

川崎寛堂

一 貴少而務使ハ條約條約條約

日以命令其先便中上事通一使席若途

川崎寛堂

業ノ旨快送延崇之ヲ務ホ研究ノ事莫周延
 悠以迄方古形出前ヨリ許田同也建
 一勸衆助由良守应養牧蓄之ヲ研究之ヲ當國
 一其致多智控務抄版書之模撰多リ帝主ニ
 駕御注多ク同郷社也為隨行ニ養致出多
 大藏理筆官應以中相也
 一兼為之而務權界任之望止界ニ圖書以當國
 先發之書能官在之ヲ個人ニ其建之也
 右ニ條ニ可將西家如社以産也
 候 幕 五 各

三條大政大臣殿

奏儀

右務卿

御中

尚以書少無務性進退之義ハ何令便之ヲ詳細ニ情実
 下中上各不便ハ中上各語至東渡程ニ概ニ奏ス
 皇後多所ノ招待多事々々今便ニ書送仕在間合至
 之也万葉國着之止下中上各也之也ハ何人ニ奏ス
 乃中上各不便ハ中上各語至東渡程ニ概ニ奏ス

并八百廿二年 第廿四世
 乃中上各不便ハ中上各語至東渡程ニ概ニ奏ス

日本傳序の今般當國は傳席を達する存滿
是より多く之國の世傳席は合衆國の傳席を取
給ふ處を推す者多し其の所を以て實に和親
傳席の方法を創するもの也其の國の
政令之を以て無き世傳席を傳解し其傳席の
果する事難し也其國の合衆國の
評議の制益多し其國の衆多し其國の
世傳席の海を越るは其國の臣民の利也
其國の傳席を結ぶは其國の民を思ふ也
日本人の一字曰く傳席を合衆國の衆多の政令を思

之を今分りて終るは將來の合衆國の民を思ふ也
其國の傳席を結ぶは其國の民を思ふ也

我傳席の國は一旦傳席の禮を各處に達し
其國の之を止る者は其國の民を思ふ也
其國の傳席を結ぶは其國の民を思ふ也
其國の傳席を結ぶは其國の民を思ふ也
其國の傳席を結ぶは其國の民を思ふ也
其國の傳席を結ぶは其國の民を思ふ也
其國の傳席を結ぶは其國の民を思ふ也
其國の傳席を結ぶは其國の民を思ふ也
其國の傳席を結ぶは其國の民を思ふ也
其國の傳席を結ぶは其國の民を思ふ也
其國の傳席を結ぶは其國の民を思ふ也

六二

七月二十

書記官

使節事務局

西中

呈送英王手書四封狀之由係差送也

西院公信手書

英部印便

明治五年七月二十日 長英京倫敦

英王手書甲乙兩通之公信手書之由係差送也

英王手書丙丁兩通之公信手書之由係差送也

英王手書戊己兩通之公信手書之由係差送也

皇上登日職權克之在 臨御日國內宮亭之儀

金口務局西中職之由係差送也

東京程之活費拉知之由係差送也

多府之市民何事之由係差送也

芝櫻手書之由係差送也

る事存也

夢拉府とありし使節アリ日所し遊藝寮
を見物いふ一書余先便累日記 書之節
漏るる念や云

世降る降る紙使節語重東く怪物を中途とて廢
止せし事一既く世上に傳播せしより必無茶園市
民の氣配も亦拘り使節を待遇するに當
りて自らあらす使の氣象を顯してや殊
秘國と此交際し関渉するに多し死^道に
御者ハ多しとるが故に現出大統領撰筆と

あきる故以て世條約に成致せざるを諱柄と
今大統領グラント及び國務尚書を御傍に
物議を沸騰せしめて其再筆を妨得いふ
アヤ結果一と知らバグラント系に内閣に備書
と物一室と氣と毒と氣と顯るを念はるる
素に信新聞及び各所々報章に市民の待遇を
見ると更と世般に景況も多し一依舊惡罵と切
るるやと安心いふ

米國の政論、三黨あり曰く「レポブリック」曰く「リ
ベラル」曰く「デモクラット」「スリット」の黨ハ今大統領

領ガラントヲ再奉せんといひ餘二黨ハ連
衡しつゝ新ニグリーリーといふ人ヲ撰挙し
以テグラントを退せんと欲せしむに世々黨互々お
抗論しつゝ是非を許さず相堂々人々を擧げん
とせり

一ツリニヨリテ字波を致し埠頭よりキューナルド社
部船よりリンボック号に急航しつゝ解纜す日ハ波
士数より大小七隻に汽船を以て市民を以て之ハ
搭しつゝ使節に世々を送り多所を地甚軍軍船
より夫々祝砲を發ち四字に玉りし港外に出づ海

上風源靜程しつゝ日十甲より字英國リウルプ
ールに投錨しつゝ多々早速迎礼者着弟四字上
陸しつゝ貴方英國陸軍少將アレキサンドルなる人
沙彦使節に延遠掛を以て命を託し軒島少海
務使節の大威少輔を以て目と共に世々の迎礼を遂
げ素接し上陸し命を以てリウルプールに市尹より
馬車を供しつゝホテルに赴き貴方リウルプールの英國
より倫敦に面して懸吊し地を以て自所を以て市
尹を以て免高社に豪富等多し英國に修し傲ひ
使節を養てせんとの決議を以て倫敦よりハ多務

昔高天原務使之得見ハオニホルニトツテ多紀
蘇我之移々セリテ高天原ハオニホルニトツテ多紀
之紀典を篇にテ高天原ハオニホルニトツテ多紀
之紀典を篇にテ高天原ハオニホルニトツテ多紀
之紀典を篇にテ高天原ハオニホルニトツテ多紀

高天原ハオニホルニトツテ多紀
蘇我之移々セリテ高天原ハオニホルニトツテ多紀
之紀典を篇にテ高天原ハオニホルニトツテ多紀
之紀典を篇にテ高天原ハオニホルニトツテ多紀
之紀典を篇にテ高天原ハオニホルニトツテ多紀

一 高天原ハオニホルニトツテ多紀
蘇我之移々セリテ高天原ハオニホルニトツテ多紀
之紀典を篇にテ高天原ハオニホルニトツテ多紀
之紀典を篇にテ高天原ハオニホルニトツテ多紀
之紀典を篇にテ高天原ハオニホルニトツテ多紀

一 高天原ハオニホルニトツテ多紀
蘇我之移々セリテ高天原ハオニホルニトツテ多紀
之紀典を篇にテ高天原ハオニホルニトツテ多紀
之紀典を篇にテ高天原ハオニホルニトツテ多紀
之紀典を篇にテ高天原ハオニホルニトツテ多紀

九止

治と貴其原ふ當火より巴里よりあはれ心組ふ
たも當政府より都合次第も主より相獨り
大博り五里也

多國に凡俗々々々々商務使ハ五二七番に隣位
々々のを派したつた等々々々々々々々々々々々々々

務使を七番定て家國より依て少く商務使を
差置れ少く頭目同國に為し四練潤く在り見

自は英界より兩國に輕重を下し其相存存
五 事務使を七番定て家國より依て少く商務使を
差置れ少く頭目同國に為し四練潤く在り見

候意に西條より七番定て事務使を
英國差遣り各々々々々々々々々々々々々々々々

書出兼子に此等商務使を差遣り各々々々
少く定て事務使を七番定て家國より依て少く

中併し止し之覽に上り各々々々

新定て大和禮贈り各々々々々々々々々々々々

新備に事々々々々々々々々々々々々々々々々々

西國に於て此等事務使を差遣り各々々々
亦巴里風に礼贈り各々々々々々々々々々々々

九正

狩衣直垂等已を用ひしものありしを國人の禮儀を受
けしむるに目を見しに其儀の付くは儀意に
大久保存孫兩副使奉程の席に後中津本館
園面を改抄し礼儀と比較し多し其意を裁縫
し解り異同を考へて其旨を要し模倣
標線等ハ繪圖面を授けしに餘物類も多し
既風を倣ひて改しし事あり

一 等以上より中等以上官員留學生等を命
じ其年月日等級級小の事等之類を其旨を西義考より
し

右に録し得し事ハ其旨を其旨より上

大使 岩倉貞視

副使 木戸孝允

副使 大久保利通

副使 伊藤博文

副使 山口為芳

三條左政大臣殿

参儀
中津

外務卿 樺

尚且大久保等之助等其三等書記官と免陸軍

必以在少多事務在調之為使帝歸朝
英國之歸在中付也

第十三編 到單 英郵取便 長英系倫敦

明治五年 壬午七月十日

信聖東... 差出後... 第十三編... 信... 務使... 禮... 國... 著... 上... 狀... 實... 在... 委... 細... 書... 送... 口... 仕... 方... 中... 止... 置... 由... 為... 印... 母... 書... 抄... 本... 概... 論... 仕... 女... 如... 丸... 僕... 聖... 信... 聖... 東... 差... 後... 書... 有... 札... 西... 置... 振... 具... 多... 可... 家... 子... 之... 召... 職... 務... 上... 亦... 在... 力... 以... 多... 一... 適... 任... 人... 物... 信... 用... 既... 利... 通... 博... 文... 瑞... 相... 席... 八... 條... 約... 印... 之... 全... 權... 在... 日... 附... 共... 古... 年... 度... 考... 建... 之... 之... 交... 生... 活... 日... 人...

進退頗多満足難得件有之再反説論
 在加多乃中服段之免多之種之少都合之次第
 も少少を日人多く爾務使之候を奉り名代人
 多々在り之を賜は之使席を辨務使とのりふ
 是倫差犯並振之風守有之其之ハ建之廣も
 差之善犯並同之勤一多ハ神國ハ由不体裁無世上
 為之存あり之枉之寛容以之居之於其到底
 西國之為之多少ハ由少都合を履一之り之と急念
 仕候今其不業中重之其箇条を掲載仕候
 第一利通博文ハ西使語聖東在去其後ハ条の草

業取個之の候席一爾務使一等書法官お會
 一々之是班を付倫一各其不見を陳述セ
 起端ハ偶々有終自己之説を主張一候論お
 合ハきりり憤我席を離半之戸外之出之終
 去りハ多し

第二語聖東在番ハ各國公使を招き初免之對
 食ハ多シ此席ハ去有禮ハ爾務使多シ在り
 少の多席ハ倍々之候ハ勿倫之候ハ極之世相
 目人見込之條物等案を審入一之其文白之
 以日病氣ハ有保養之為多之旨之旨為語候也

六
 文
 白

一、母后の廟中第のりくく、その日る、活聖宗
を去り、福務録の書記も、控性先を記す、
此後、万國政府との性権の形、
扱居る、
有る、
吾國の傳中、
ふ、
有、
るは、
の督責、

仰り、
席せす

第三大藏少掃去の清成素着の上、
少を券する、
是を、
決、
は、
我、
券、

大

其の新債と号論多々詔勅等々も亦見
其後其の録券ハ士卒一族ハ所有物を

朝廷とて擄奪すその不業なる額を救済

認め英文とて刊行し之を公布せり其の英文

とて刊行せり紙以て目入と目的ハ其意を洞

見するにせり

其の刊行文ハ官位姓名を雙具せる公文

体ありハ有礼と称せしむる一編勢使

公使ありとせり

第四右公債と号し付其後其終よりウヰルリヤムス

大蔵省ハ雇入ハ其國
人々々其の法成ト同伴

其ハ公債を新募するは日本とてハ大害あり

其竟ハ其下と思考より日本政府と感ハ一免

多るありとての事ありウヰルリヤムスも其書を

其多々憤志一箇指し書ハ政府と名代人

多るといふ筆す其記とありは其れハ昂と政府

其命と公使ハ其す多れ不業ありといふり
其の法成之
を詳知する

第五其録券案を論するハ其ハ其國條約第六

条裁制と権理ハ互約する事勿論と其

其者其指り之を其ありと日本地内限り其

單物も一國を以て罪を犯す日本人もあはば
かゝる一國に法律を以て罰せらるるを見
るべしといふる輩も何人たり書き置かせり
世帯に付るる急務 而も細り以て命を乞ふ
一夫正之條物に會儀も原中を以て
あり有る付るに終るまで其後再び
書を考へていふに内情を以て一國の務
省の法律家某小岡合也其書に單物
と申すありといふりとして法律事務使
と申すは一國獨多し権理を保存すべし
と云ふ

詰より多し其方より求むる一國に権理を
國に與ふに招くを以て其を以て將來
と云ふに於合はるる其代も終り
其後續末に事件に多し其種も其代
身柄も多し到底一國に各代人多し乃
其分を失せ外に其見し其を以て國
内限るる其目人一已に失ふるる
其法を以て其國に於て其被及す
其我政府の以て其辱るる其書に
其書に其生るる其心配仕置る
其篤し其評後其上平皮と免
其法を以て其利通博文再續
其上乃お終り其評決

中ノ世ノ事ニ由リテ

大副使五名

三條右政大臣殿

大藏卿

中

外務卿

明治五年壬午七月廿日 從英京倫敦

以多帝海軍上級海軍大佐波士敦開帆
後洋上風浪平穩當十時英國リールプール港へ
放觸生夕倫敦府へ到着し一四時ニ至り
おのち初めニ英國外務省書記官グレンウィル氏會
面し中ニ日本政府より支へ延滞掛り候人々
所見物ホク周旋する事奉り候旨命り候事
着て候旨候事候旨候事

大副使五名

英少商務使殿

為以日本より用状到着す。其早達は
よく、お務宿より知れぬ。之に因りて
(洋文に書)

西院外務省公信第百十三号

英少商務使殿

明治五年七月廿二日

英京倫敦

當より、英國領事館に於て、倫敦到着す。

第百十三号の公信

七月廿二日付
英領事館便

を以て、詳細中述す。

少商務使殿より、英領事館に於て、倫敦到着す。

英領事館に於て、倫敦到着す。

少商務使殿より、英領事館に於て、倫敦到着す。

英領事館に於て、倫敦到着す。

少商務使殿より、英領事館に於て、倫敦到着す。

英領事館に於て、倫敦到着す。

賢問官負亦美出多々ハ其者亦多官職を異
ニシテ其多ク自然辯務使ノ圍範あり出然
ノ事則應了之規外も實際より事案を存
シ付僕等一日本終之上將表海あり學生
徒而儒内ノ規外も勿論以圍ニシテ差出ノ事
揆查ノ方法多ク日根不備中にお手前ニ
患無ク招ク自續ノ所席を立ク後便ニ事進
其右規外十分整頓ニ事ハ公和ノ為學生
諸君省ノ賢問官負亦何事ノ各義多クも
一切差洋多ク事招仕後存も多クハ情

其本を指ク其標を治者賢多ク決々今日
ノ不親分をニ掃以テ其賢者集ニ事
其長以評解早ク供者者ハ以布令以重其招仕
公
右ノ額ノ以少差少母以座員以上

大副使五名

三條右政大臣殿

奉儀

外務卿

御中

為以教書少而務使より差出貴為學生ニ事付

建言寫差進中候

使節一坊多矣筆狀ハ既ノ千二号ニ公信ニシテ差
置不致昌今友ハ差立不中候

第十四号

法國郵船便

明治三年正月十日

從美國倫敦

二月十日附是世号公信布日甲某國より其着担見

心一先以

皇上益少極嫌克 由世一乃在在乃多士

展轉頌之越一因務多車教祝也今位多以轉勵

少多機拆在之至少座也次之世方一因多矣是亦也

故懷上少後也

皇后亦少宮之下 止少於之養也之乃縣治事務

邊之勢於海内多多事一之能生地真國 自多子

素訪之旨接待急リニ命去リ及江坂目法御所
ヨリ書付有テ英博覧會事務亦夫ノ由中執
條ノ法意亦英法諸國着落ニ京院ハ先便以テ十二
號ヤ進出通ニ之ニ爾後ソルバルクノ接待
ゼ子ラルアレキサドル等誘引ニテ多ク遊覧在在
在夫ノ留留日記ニテ西義等々ノ趣旨女室瑞見
ニ云フ所月ノ附々ニ英文書等當ル務者お
障リテ其ノ返答等々亦在在米國滞在中
兼々日國在英法諸國公使在在案内ニテ八月
月ヨリハ女室瑞見在在離宮ニ在在

素春第二月ナリハ御宮ニ在在候々在在
照家佳節滯航ニテ在在素春在在米國
程遷延貴、世所橋在在且是前寺高上之相
務使留見ニ御便中進出通日務ニ趣旨在在
ニ在在催迫もつゝ兼々揚合在在奉
存世男前文書等件ニ在在在意味合當中在在
以テ上ノ在在物々入界世知々世席一傳受在在
ニ在在西曆第二月初旬ハ女室瑞見も在在
由ニ在在在在在在在在在在在在在在在在
在在在在在在在在在在在在在在在在在

中 進 步 乃 右 書 寫 字 漢 文 乃 水 添 美 進 中
先 般 以 帝 令 以 度 友 披 崇 之 賢 文 武 官 負 之 名 以
既 以 一 定 亦 求 其 治 之 由 皇 族 之 名 以 中 之 以 官
別 等 之 既 之 際 案 之 以 官 寫 字 之 官 方 以 之 在 其 中
之 付 早 之 以 決 樣 式 之 中 越 之 之 招 海 交 存 長
陸 軍 省 生 徒 在 國 德 之 師 之 中 之 瑞 西 兵 監 賞
之 為 字 籍 成 業 也 之 以 屏 朝 之 後 積 之 之 山 國 理 事
官 之 任 世 日 人 之 德 以 回 招 亦 必 以 其 用 之 反 級
卡 數 高 之 補 務 使 中 於 中 濟 其 將 又 回 有 生 徒 法

國 為 字 漢 之 易 之 山 國 理 事 官 之 國 農 程 之 研
陸 軍 省 之 令 令 於 案 其 留 法 國 亦 必 以 其 用 之 反 級
官 之 德 以 之 中 濟 其 將 又 回 有 生 徒 法
嘗 因 在 焉 官 其 生 徒 山 口 島 費 屬 大 師 直 播
大 藏 省 回 呈 羽 島 費 屬 和 林 之 助 回 吉 森 島 費 屬
師 以 富 藏 之 子 部 亦 理 事 官 德 以 之 中 於 少 用 之
亦 納 步 中 濟 其 將 又 回 有 生 徒 法
師 相 之 振 中 付 益 故 右 以 川 幸 之 也 寺 高 西 務 使
中 於 亦 年 之 也
亦 之 會 之 以 只 是 也 亦 抄 也

大副使 出右

大副使 出右

三條 左政大臣殿

奉 詔

外務卿

中 休

第 十五 號

西曆 第一 月 十 六 日 奉 詔 周 札

英 國 郵 船 便

明治 五 年 十 年 八 月 廿 二 日

從 英 京 倫 敦

壬午 六 月 廿 三 日 附 英 郵 船 公 信 當 月 十 日 亦 建 設
指 見 取 去 以 々

聖 上 登 御 攝 殿 克 以 進 奉 一 々 在 各 位 金 以 結
勵 以 幸 積 之 經 折 賀 之 為 り 故 回 右 公 信 一 々 以 中
紙 之 件 一 々 之 義 等 一 々 一 紙

英 國 女 皇 出 先 便 中 進 一 々 通 來 凡 第 十 月 上
旬 之 事 歸 宮 一 々 一 紙 之 義 等 一 々 一 紙 付 外 務 卿
英 國 外 務 卿 書 一 々 書 通 一 々 一 紙 一 紙 家
外 務 卿 書 通 一 々 一 紙 一 紙 家
兩 文 一 紙 一 紙 家

便差進 少程不常の通西書局集の第一即右京
又譯文者差進の中

英國地盤掘りし案内、越え東の世三万頭より使
席了自蘇松茶の諸製造所亦有之と希居
オノ見物倫敦少立凡二千の洋の地歴と再
倫敦の保り積りの中

新制の礼服と養生儀の概中進し其通政府
より之より權威繪圖を以て西洋一般の禮節
照し合並所共裁縫の種々異同有る其名佛國
の服制の概の登り一改正の事一昂り不常

繪圖を以て通し其成る者及び其の中進し其を英
國を以て其多國帝王亦之留見より供礼典の
都多世新制の禮節を其國並積り口中

累日記に綴差上等の諸府より其解見物
摺振少積知りの中

刺島外勢卿より口中紙有る其事務候俸給其
使臣館諸費交際甚固り其多富而利通海

兩歩務候より評議の中其多由り決議必其活
便可也上紙

右の紙より其委相り其多其後候可也進

廿

大副使 五名

西院

外務卿

第廿五編 之記 之院 之り 之角 之通 之り
之り 之り 之り 之り 之り 之り 之り 之り
之り 之り 之り 之り 之り 之り 之り 之り
之り 之り 之り 之り 之り 之り 之り 之り
之り 之り 之り 之り 之り 之り 之り 之り

第廿六編

英郵 船便

明治五年 壬午 十月十五日 英京 倫敦

第廿五編 廿六編 廿七編 廿八編 廿九編 三十編 公信 西者
莫藉 吾所 述 歷 中 之 事 茲 以 茲 據 見 去 生 以
聖 上 登 山 攝 籙 克 奏 滿 東 京 之 還 幸 鳳 肇
至 所 之 慶 欣 迎 頌 聲 載 達 之 誠 每 隨 之 卒 之
兆 之 一 月 拜 拈 頌 之 之 位 金 以 精 勵 以 身 儀 以 之 又
欣 笑 之 至 存 以 之 編 之 中 誠 之 件 之 述 之 頌 之 義
以 之 一 之 友

由利 公正 貞 續 之 仰 有 甚 矣 之 付 之 之 中 誠 在 矣

人々を委曲の二言事と在る

朝鮮國に事置振養支那政府に引合之云々柳永
少卿勢使建領事務省相と語其委曲銀幕等
長卿解之云々自是種々訛傳も有之新史帝本
櫻尾と中觸し云々付あ國人より毎度詰問を
受む事もふ少中点も無き事也
高呈振と付廟議云々定之帝本又江沿至急は
中教方之云々在るも一為存也又以國電線決
り候功古事等分云々何地より何地迄是等里間
書成將來夕陽功ふ及今何事原も成功し見

此の書成は亦も和人の應答母窮し云々指し
可報云々云々發決路云々も回報云々在る也

嘗因政府引合之云々女皇巡幸事云々女先
其儘差置云々所巡歴之方より古語の美蘇云
云々揚巡覽云々月日云々嘗府世之常月云々府
政事云々所何事云々懇切に待遇を受む事云々米邦
滿當云々云々部云々事云々全云々以國威に依りて
事云々之目感戴云々傳云々云々云々女皇云々も
當十方頃事可被設由云々在るに備見も云々お
海云々引合向也云々下云々云々

新製紅版之為利通博文再渡洋之知以布
歩少事並録之似可達口中之事何國之利
若用一少法心始之其法可先便之為中進
其通右事之一事一申外之法其法之不知
合少少事官於寺高之而務使之以電信之務者
此乃之念用合之及之其法之在信之該之知之無
之少之信通之一事其法之其法之其法之其法之
表向祀或之其法之新服者用之其法之其法之其法之
樣少事並録之似可達口中之事何國之利

吾國在焉而務使銀之費之定之額之其法之其法之其法之
西而務使見以中之其法之其法之其法之其法之其法之
之其法之其法之其法之其法之其法之其法之其法之其法之
當府藩在之其法之其法之其法之其法之其法之其法之其法之
決其有之其法之其法之其法之其法之其法之其法之其法之
之其法之其法之其法之其法之其法之其法之其法之其法之
廟儀也
當國步之候之人國之其法之其法之其法之其法之其法之其法之
當其務御依類之其法之其法之其法之其法之其法之其法之其法之
其法之其法之其法之其法之其法之其法之其法之其法之其法之

亦總之後是也其回人亦航到之扁石係書多
以之解之其亦多也其昔好之後後着尾之初
亦之在覽亦亦當之口接待之之友亦務者
神急川一亦亦其如之願也口達之下者友
大使隨之推少亦史之宋邦武公奉一執掌
之付當九月之月之洋報五拾元之增給中後
其其之信大藏者一少津一者之其

官之理事官東之世通結大使隨之或邦助
五之官伴一官之省理事官隨之也其
中後是也其高之信長者川廣安事務亦納

際中與古所當月之佛國巴里度之天竺通
歸朝之也一其其之官内省理事官隨之
官之大近也之徑滿之也其其之上自其之其
佛國為學之友者其出控巴里滿在亦在友在
之其者之其限之義而也其其之其其廟儀之上
之其少其其揮一其其之其友
其者之理事官隨之也其亦其事務也其其抄
其者之付當年中一其其其也歸朝之其其抄
其又以其其其其其之其友
其亦其書教歸之其其其其其其也

大副使 五名

太政大臣殿

参儀

右務卿

少輔

為江之日常より甲日世の通に略日記に於ては
其類申す便差進中其他以月本略日記
蘇格若申出之等々亦又今便差進一
巡歴中日記未夕撰寫より兼其旨次便
差進之り候

各因在番兩務給入其定額元に通

官負給料

一 大辨務使

一ヶ月 二千四

一 中辨務使

一ヶ月 一千七百

一 少辨務使

日 一千五百

右月給内を以て飲食薪水汽燈婢僕給料
及び宴筵入費在番府内出行馬車料等一切
支賄可申奉

辨務館帮兩之り為人雇入其給料

別小支派去一記事

但定雇之今夫世之人名品以所授之職當給料之多寡を疏く多務省何之正可多計

去臨時雇入之今去不在世限記事
而務使公用を以在番國內及他國に旅行費
旅入費及不修費消之多く亦不支派去
記事

一 雜務館一等書記 五等中當 一月四百五拾圓

一 日 二等書記 七等中當 日 二百八拾圓

一 日 三等書記 八等中當 日 二百拾圓

右之外家雇賃借料々々一歳三百圓之支
給之記事 而務館内之在任するもの多
不在世限記事

一 書記試補 等外 一月百五拾圓

右之而務館内之在任者 而るもの多
雇料を不修事

右之給料 其の自給食俸僕等諸費之
充て公用之 在番府内出外馬車代及旅
行亦之其支別之支派去之記事

一等書記 而務使之職當を代任

其の如き之を三年三千圓に割るに以て支給せし
一 給ふに右勤務中一公用馬車代及勤務
使同様の如き支給せしむる事

二等書記一階格、一等書記の代任を以てする
所を以て其給料を倍せしむる事
少司務使の任に代りし母可有りとて其
書記代任の如給料を同しとせしむる事
旅費支給料 （公用馬車代及公用馬車代）
少司務使及少司務使代任書記以外医務兼代の
少司務使の如き事

其の如き官給せしむる事

右の如き之を三年三千圓に割るに以て支給せし
其の如き官給せしむる事

一 勤務使給料 （附） 國より公費に属せしむる事

一 勤務使給料 （附） 國より公費に属せしむる事

一 勤務使給料 （附） 國より公費に属せしむる事

一 勤務使給料 （附） 國より公費に属せしむる事

一 勤務使給料 （附） 國より公費に属せしむる事

一 勤務使及所屬官負勤期間三年とする事

九月

九月

第十七編

法邦便

明治五年壬午十月六日 長英系倫敦

英字編 英世之報 公信去月廿六日及本月廿二日
發到者 海船見世先以

至之上 登以 橫濱 臨御との名 在海寓 西字
吾任 登以 務 屬 以 在 續 之 証 達 領 世 以 之 日 年
存 長 却 職 之 同 多 之 日 年 續 在 在 以 故 懐 之 下
發 也

英邦 英程 之 仰 據 斯 東 府 不 美 立 世 英 十 二 編
以 信 以 爲 子 中 年 在 中 道 故 屬 之 以 意 爲 之 証 領

大英

卷之七

朝鮮國へ發せしむるの懸垂曲り細流等
皆所上も適宜に候事公事等並指申候
玉乃權大御方の員備へ候事入候事忌憚養
も以り届り候事候事候事候事候事候事

江後月法御疾震候事申事候事候事候事
右邊候事候事候事候事候事候事候事候事
候事候事候事候事候事候事候事候事候事
候事候事候事候事候事候事候事候事候事
候事候事候事候事候事候事候事候事候事
候事候事候事候事候事候事候事候事候事
候事候事候事候事候事候事候事候事候事
候事候事候事候事候事候事候事候事候事

与存候

横濱東常呂候事候事候事候事候事候事
候事候事候事候事候事候事候事候事候事
候事候事候事候事候事候事候事候事候事
候事候事候事候事候事候事候事候事候事
候事候事候事候事候事候事候事候事候事
候事候事候事候事候事候事候事候事候事
候事候事候事候事候事候事候事候事候事
候事候事候事候事候事候事候事候事候事

去月十年所費十二編公候事候事候事候事
國女皇名御心御府申事候事候事候事候事
内中候事候事候事候事候事候事候事候事
候事候事候事候事候事候事候事候事候事
候事候事候事候事候事候事候事候事候事
候事候事候事候事候事候事候事候事候事
候事候事候事候事候事候事候事候事候事
候事候事候事候事候事候事候事候事候事

大正

餐之御會多賜至極鄭重之至故多々且為
口之者女子少も夕宴之招待ありて其然其積に故
物見之流以上亦め皇答詞と別詞と通ひ度故
馬関横重及横濱兵庫引揚ヶ方徳島と義と先
達而女皇一同當多務卿丸帛府者付早進去
月世方尋問ありて和端緒を固記引續き其
再次に接話ありて其後多々未世方見込書互
亦濤一置其今より其三次に會話は方々申
召必其決答に次第ありて之と存其一其郵形也
左其付今候を難中上其何甚とも其後多々高

後悉^皆悉心次候了り上其務も其當國に用路も
先古片付了りて付當十二日迄は其法國向り
爰輒其以以に其多其右横に其多其上下其長
當府屋店に招鋪アメリカン、ジョイントナショナルバンク
中其の多々其右に其多其也其國其員及留學生徒
其も其多其其多其其多其其多其其多其其多其
理事其其其其其其其其其其其其其其其其其
其其其其其其其其其其其其其其其其其其其
其其其其其其其其其其其其其其其其其其其
其其其其其其其其其其其其其其其其其其其
其其其其其其其其其其其其其其其其其其其

東宮上皇ノ体右ノ信也托出東部船と多々西曆
ノ自ツク桑泥炭輪と云々の、之ノ體様候於ク歴史
秘ノ心也マメリカ秘ト云々及自自秘秘失也
秘國ト云々世ノ信也着ト云々連在十部ノ心也
少中秘也リ別命ノ写ト云々知也書ト云々秘等ト云々
存也
常國生伝子身多智方ホノ困ト云々別命ノ写ト云々
通重子瀧方寺也大辨務候ト云々立立持也
情ト云々自心也善リ届也也大徳也瀧方ト云々
中々秘也大徳也ホト云々沙也ト云々下也

右第三十第三十ニ部兩信ト云々報美也況中上云也
也
連名

正院
宛
あ務御

尚也此等獨見ト云々初ハ先般ト云々定ト云々成也新礼
版着用ト云々也ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々
豊也也ト云々部ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々
心也等ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々
者ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々

英蘇各所出日記別冊差進中

第一 西渡書影中 一存 第二 雜書影中 一存

第三 公信影中 一存 第四 雜書影中 一存

第五 日記

第十八編

明治五年 壬午 十二月廿日

第十八編 公信影中 一存 一存

聖上登江橋歸克 降御上 在海中 壬午 壬午 各信

金口精勵 口奉緣 一存 違改 一存 口奉 隨分 都縁

一因 一存 口奉 隨分 都縁 有之 一存

先便 一存 一存 公信 影中 進呈 口奉 通 一存 皇 獨見

口奉 口奉 口奉 口奉 口奉 口奉 口奉 口奉 口奉 口奉

口奉 口奉 口奉 口奉 口奉 口奉 口奉 口奉 口奉 口奉

口奉 口奉 口奉 口奉 口奉 口奉 口奉 口奉 口奉 口奉

大正

高小中物多昂今口舌上論制之みり
並諸事多難叶致之り而少中在也
按事情之難者多昂昂呈書英文字多接
書寫寫下之難曉悉細之り情之深悉之り
納之安存也

由利公之多々當地控之而會法多昂昂者
亦滴一頁之樣也 潮中法今郵使船を以歸
亦積口之難者多昂昂之り見難造
亦も同様之り也
目法御江東 臨之諸友負之當地おあり

而會之り一頁英國之用向亦海之付直樣法
固由張之積之も多昂昂之り在るにミニストル、ウ
トロー之り合呈多昂昂之り座者之り之り安ん
善之り一積多昂昂之り務使之り之り合呈之り
席之り之り之り政府おあり之り之り之り
亦積之り之り之り一切之り之り之り之り
法法見合之り之り之り之り之り之り之り
英國章程法之り之り之り政府接法之り之り
アレキサンドル之り之り之り之り之り之り
之り之り見送り之り之り之り之り之り之り

大

地法着の常法法政府の命は接待をせしめ
 アベル及コムンダシミアノワン来迎に地方兵隊整列
 出接するに政府の役者も其智中一若者兩
 園とも至極鄭重とするに其に中其當國の統
 領キエル着来世中のクリスマスに付巴海に
 航するに備するに其事も付其常例に見るとも
 ありしに其にシテ其來ハマシキ事大に其意に其國
 出候に其見止に付石留見るとも其海に其早連
 證也とて其ありしに其海に其早連證也とて其
 其に當他ありしに在るに其候も其引合ありしに
 其に當他ありしに在るに其候も其引合ありしに

其に當他ありしに在るに其候も其引合ありしに
 其に當他ありしに在るに其候も其引合ありしに
 其に當他ありしに在るに其候も其引合ありしに

其に當他ありしに在るに其候も其引合ありしに

也

其に當他ありしに在るに其候も其引合ありしに

第十九編

法部 船便

明治三十二年一月一日

從法京巴黎

第廿四号 公信去年年歲齋曆十月廿二日
公信本正月廿二日 若後新着 何是之體見
也

皇上之御操業之在 係御之國四年
之信益以精勵 以年歲 遠頌 於
而於方一日多之 年歲 在 若 官 以 休 懷 上 下 者

米京華慶於 府 若 之 廿 第 十 號 公 信 以 爲

大正

手利通博文瑞奉後一月恒滿之上實地之形
命之奉祀使命之方尚自亦改其費之付之
進及余以孫意亦奉其誠儀之四ウ一誠
也

白露國船支那雇奴攬載而邦之儒者之
交支那人之所出多誠之云々兩道具備之上
人倫之公義之奉祀夫之少多亦亦奉在之付
意如支那人之中國ト以訂合亦成之上海
日知錄福靈海來波多之云々也國之隣
海之威威之云々蓋之奉祀使在右公告書之英文

以美能是又為之海自也然新史也之云々白
西國國之軍艦使出之國之使節派也其由
亦見之定多在後之禮也之涉り之云々也
仕長

英陣和士族之礼問之余其甲斐國士氏輝
起之云々也蓋之奉祀使在右公告書之英文
右之云々也蓋之奉祀使在右公告書之英文
之奉祀使在右公告書之英文

月法省中一警係察口有級有之國之平之
之任之當り也右之云々也蓋之奉祀使在右公告書之英文

と一國を統領と爲すに事一控通叙引合と色取
動りて中一以てはと定む
右と世に稱ふは公信の報する況中進者也
と定む

使節五名 菅原

三原右政右大臣殿

奉之儀

外務卿

尚且公使新正賀帖と然と難奏とて後也
且米國より美を。此の稱公信解り延着也

不審存在右と何色り滞居あるも也
口穿撃を方と定む

美國におもく外務卿引合とて接書字先便
り合兼也今候美進中候

大正

茅山抄稿

法園郵便

明治二年四月十五日

奈良巴都

茅山立稿公信在藏四月四日
同日在御書亭持筆茅世六稿
同日十二日在達つと披見法先以

聖上冬口極輝亮臨御との在海富平靜冬
位宮口極勵口奉儀との處達頌祈との
御稿の月毎奉一在口新多是稿也

各稿公信中可周

一秘傳の園マリヤルズ船島一系

一 奉朝奉公止禁止 婦女藝妓解散

一 左院儀制改正

一 大納言勘農寮正兼司廢停

一 長海教坊再

一 皇太子遷幸以接待振

一 為學生親見之身兩理公使止達之儀

一 外務省海軍省工部省官制改正

一 司法省之控之吟味之席言早之分界を廢止

長官

一 陸軍省舊幕僚高申之生番之為之廢殺之條を付

一 為檢索官負之責任を長

一 上野素範中山儀治并田儀小吾園止派出公使

一 及領事等之任命を

一 右河毛小義等之任命

一 工部省之控之責任を工部省長官に之を以て國に趣

一 之を以て之等書記及并量目人等之責任を

一 司法省中務省

一 司法省理事官修之末之官以下四人並中山信

一 彬也并桂次郎以因本海部朝之

一 理事官修之末之官以下四人並中山信

大正

三月月勢高満る乃終云

大西洋電線通る後昔人ウエストフールト

と云ふの在る中一國總領止る為今會ひ多し

多事一も口座古多今般墨中差越執業之我

中出在吊儲簿乃後古多平洋中にも大

西洋同様電線通る後在り日本政府と都中

助手般墨古も口座古吊原墨本洋文添差上

中古古在り口座古通る古多古多古多古多古多

之便も中進古通古國古為佛礼典先古古海

古之付古古古政府引合古多古多古多古多古多

勢御ふ候も梅待^破古古古古古古古古古古古古

古

法國先帝三世那倫古古古古古古古古古古古古

古古古古古古古古古古古古古古古古古古古古

古古古古古古古古古古古古古古古古古古古古

古古古古古古古古古古古古古古古古古古古古

古古古古古古古古古古古古古古古古古古古古

古古古古古古古古古古古古古古古古古古古古

古古古古古古古古古古古古古古古古古古古古

古古古古古古古古古古古古古古古古古古古古

古古古古古古古古古古古古古古古古古古古古

大正

大正

信局 出石

三條 左 政 大 臣 殿

参 照 各 様

別 島 外 務 卿 殿

田 口 大 一 少 将 方 丈 へ 申 達 申 上 候

美 國 一 海 軍 大 佐 方 丈 へ 申 達 申 上 候

第 七 號 別 草

第 七 號 別 草 二 以 上 條 目 陳 列 日 本 皇 國 帝
皇 上 御 下 二 三 切 官 官 表 表 上 候 存 意 申 付
世 方 上 御 下 二 四 愛 々 申 上 候 情 同 合 共 振 出
國 在 番 回 國 公 使 方 官 官 表 表 在 國 中 一 回 國 為
学 生 主 本 國 務 二 中 央 官 官 表 表 二 日 入 心 同 合
新 島 島 外 務 卿 殿 へ 申 上 候 書 差 込 申 上 候 事 宜
ブ ラ ン ト 二 為 申 上 候 書 差 込 申 上 候 事 宜 申 上 候 事 宜
申 上 候 事 宜 申 上 候 事 宜 申 上 候 事 宜 申 上 候 事 宜

大正

程任取事之付右示之候於此地夫是之可也存
其後之事情豫索仕多交心固之無細無所一般
宗故方少矣其より之付二等之賞表之古蹟見
之取抄多國君至ハハ美等少度其振子之也傳
多仕其程委曲之候之候便子之也其一也不
有教所為中進至也

第廿七篇

明治六年二月六日

奎自巴里

第廿八篇 正月廿七日 田世五郎 本月廿七日 寄來何也
行被見世也

聖上皇少御孫克 臨御之方在海富重程之位
意也轉勸也其候之候遠賀世少之也其次 郡候

一月多矣其在少傳神也之也

田部中少御之候之候 以曆少候其物之也其大郡
新部合併之他之候 其新制之候 服模式
指本少差候之候 仕也

上端ノ公信中ノ中ニ至々通當國ノ事務御病
氣ノ憂情多ク付南人會ノ邊トテ中ニ就仰去月
廿四日而層々般傳命ノト方々馬實僕等
一宗不陸物及多々邊方ノ抄抄ノテ就方
ノ書及今以返答答々ノ何色返テノ
抄書右首末ノテ一進在在右首着ノ不日
當府出立白義國ノ向少邊是虫心以ノ
勿務之末書紀ノ傳傳ノ一書書記及陸國
三節ノ陸物ノ致々ノ邊方ノ書記及陸國
朝中邊方右當國邊方中ノ是是通中動

書ノ付書月末郵船ノ以隔朝書ノノ
其
ノ傳傳ノ一不書記及福地源ノ部一發却見抄
既日多希賜不國和ノ々々各國交際振振裁裁
刑法等々一實地ノ為及備ノ免空國ノ々々美書也
右以用古海抄多直換邦和右備ノ致々要物
勿務者中ノ一書括中邊方右首着ノ不日
原長
田四等書記及池田實治書當國和ノ々々為右
調長以用而ノ々々一當府邊方中付書右首用

書海防局元号在部、朔を發せり、且當國に其
 為學生諱、岡部一族、粟本貞治郎、大使也、
 二等書記官中付、甚多、他、岡部、當府、藩、在
 長、岡部、書記、多、務、二、等、書記、以、以、以、當府
 公使、館、勤、仕、中、付、且、耳、曼、為、學生、山口、氣、生、族
 青、本、因、為、多、務、一、等、書記、以、以、以、仙、井、尉、公
 使、館、勤、仕、中、付、以、以、以、多、務、者、公、使、者、
 以、以、以、公、使、者、由、中、上、取
 之、と、存、在、
 外、部、省、課、長、官、也、以、以、以、此、後、鎮、之、今、部、知、事

兩人當府公使館而、角、之、級、較、高、公、使
 中、交、與、自、日、有、課、事、官、因、中、不、之、廢、中、
 在、兩人、公、使、方、引、渡、中、其、又、館、長、公、使、及、日、中
 課、事、官、分、委、由、中、其、多、の、と、存、在、
 第、十六、編、公、信、中、中、其、最、通、各、者、課、事、官、係
 隨、以、之、為、之、回、曆、上、月、中、口、因、之、為、海、防、
 省、知、事、中、通、院、之、主、之、課、事、官、向、之、之、之、
 省、課、事、官、山、田、殿、長、日、隨、以、之、為、之、
 省、課、事、官、隨、以、神、守、固、之、使、隨、以、日、海、
 省、知、事、之、部、省、課、事、官、也、因、之、為、之、回、
 省、知、事、

大島渡山助亦ハ夫々見込ニ勤ムルニ定於藩
在可也之ヲ務ル力及酒造振政中海ノ由
世所ハ儀家等々ノ後也
右ニ世ハ世ハ兩解ノニ報責ニ況中ニ在
以度也

大副使出各

西院

和務卿

宛

同副算

正列帝ヲ按見其ハ務省中ハ中少ニ補務使
并大少紀ノ廢公使書記ニ官制ニ定其ハ付生便
四也少無以下ハ官任ニ及中ニ雖古來夫ノ如
建一 昔茲ニ世報ノ公信口以中進其通ニ及之ハ其
多矣今候控又之、中ニ雖然時言否亦勤其
之矣、中ニ其方ニ其後其ハ体今取進出ニ使
席、珍島書紀ニ製主以用中一師、職制多其
中官ニ等知、ハ亦當少波内ニ其亦皮等ニ其

六
一
一

太正

有之其位之... 今般... 改定... 其生... 多... 務者... 磯... 出... 關係... 今... 以... 周... 慶... 帆... 之... 位... 爲... 其... 勤... 先... 便... 以... 義... 御... 一... 宮... 方... 以... 聖... 友... 之... 心... 持... 以... 積... 之... 以... 慶... 友... 右... 以... 報... 也... 也... 林... 以... 慶... 友...

大副使 出 名

外務卿 爲

王后八... 坤...

第廿三號

明治六年二月...

農自巴望

第廿三號... 明治六年二月... 農自巴望... 其... 上... 旨... 以... 極... 廉... 克... 臨... 御... 上... 在... 海... 宮... 宇... 宇... 各... 位... 全... 以... 精... 勵... 以... 聖... 儀... 之... 余... 遠... 頌... 哉... 有... 今... 在... 存... 矣... 郡... 勝... 等... 之... 向... 矣... 有... 之... 產... 儀... 在... 在... 西... 安... 神... 之... 之... 慶... 友... 四... 十... 一... 號... 以... 信... 中... 一... 以... 新... 之... 余... 忠... 皆... 相... 義... 務... 矣... 先... 使... 中... 進... 呈... 友... 通... 奉... 政... 府... 引... 合... 第... 三... 十... 號... 之... 取... 割... 其... 者... 實... 志... 以... 十... 一... 之... 外... 務... 卿... 亦... 各... 事... 而... 未... 先... 爲... 着... 其... 友... 右... 書... 類... 今... 便... 義... 進... 之... 一... 慶... 友...

六

合議者乃次便差金了り
其先陸田三郎 南郡
船より帰朝者乃委曲同人
不口内居上り後且
同人多々末邦以奉
政府引合向邦より引受通
嗣後一乘者乃付
所迄定地一掃様上凡々
同人之此上固多々
意存候

當府同向書海者付
早速奉報之心以中
其多々来ル上之
當大統領小書
燕夕饗之招
待多々多々右
乃水海聖十七
白雲園よりお
誠者乃今也

先便中々之
當府留學生
要年貞治郎

二等書記官中
付書家金
候席在殿中
下等席上之
回報之助多
以因水海
多後天少而
留學生三渡
一者乃之
以座者留生
也乃心以
之邦有之
以沙法
与候
最後存候

東國博覧會
以用起り
先着之
之乃中
立候
候も多々
且寺之
公使乃
中一翻
一之者も
以生
候之付
大使候
以二等
書記官
少松
志葉
義友
在
博覧會
事務及
兼任之
心以
中付
回國
正
其先
陸田
三郎
南郡
船より
帰朝者
乃委曲
同人
不口内
居上り
後且
同人多
々末邦
以奉政
府引合
向邦よ
り引受
通嗣後
一乗者
乃付所
迄定地
一掃様
上凡々
同人之
此上固
多々意
存候

右中進
官少毎
以座多
也

別紙

若京海舟ノ様ノ先領ノ右ノクニ一紙一差在ル

一雷門之積古本在右ノ内ニ在リ

一雷門之積古本在右ノ内ニ在リ

一雷門之積古本在右ノ内ニ在リ

一雷門之積古本在右ノ内ニ在リ

一雷門之積古本在右ノ内ニ在リ

一雷門之積古本在右ノ内ニ在リ

一雷門之積古本在右ノ内ニ在リ

一雷門之積古本在右ノ内ニ在リ

六

多國凡者... 船... 列布... 思...
去程... 舟... 居... 金... 少... 神... 々... 添... 甚... 多... 小... 體... 々... 給...
其... 乃... 々... 々... 友... 石... 亦... 日... 神... 々... 所... 々... 具... 體... 且... 各... 々... 亦...
其... 乃... 々... 々... 友... 石... 亦... 日... 神... 々... 所... 々... 具... 體... 且... 各... 々... 亦...
見... 以... 基... 乎... 裁... 體... 中... 付... 為... 以... 奉... 政... 令... 候... 上... 中... 以...
實... 物... 以... 熟... 覽... 々... 上... 一... 丸... 以... 解... 漢... 々... 々... 交... 守... 作... 友...
也

明治三年一月

仔細別後

大久保別後

白院 卷

弟世三郎

明治三年一月十二日

在自曹系伯林

以公信抄上長先以

正之上蓋... 儀... 候... 先... 際... 御... 々... 海... 富... 平... 宮... 々... 候...
念... 山... 精... 局... 以... 身... 儀... 々... 茲... 加... 額... 世... 々... 々... 山... 産... 々... 候... 候...
候... 百... 々... 々... 之... 在... 以... 身... 神... 々... 々... 候... 候...
弟... 甲... 二... 編... 之... 編... 公... 信... 自... 耳... 發... 花... 系... 此... 歷... 々... 追... 々...
爲... 以... 其... 制... 以... 防... 々... 々... 茲... 々... 他... 以... 中... 候... 候... 候... 候... 候... 候...
且... 廿... 五... 編... 公... 信... 以... 中... 々... 々... 系... 々... 以... 係... 系... 々... 茲... 々...
亦... 弟... 世... 三... 郎... 之... 也

多國止聘之費之付之少中誠存之業多あり
急事一所在是つた在矣佛一之際先便務況中進置
去通移、多按取豫多く、少延替務多
控先般編信、少中誠多く、奇精く、日於
又但之遊歷之終見之、少巴里在番中、少去之引
合之、少彼中進之通之、少巴里農程既、
自年、少為之業、少兩國巡聘、少少漸、少少あり、
當府、少糾着、少一、少少、少周帝、少獨見、少少漸、少少あり、
少後、少皇宮、少あり、少多、少鑿、少少答、少少あり、少少、
少后、少東宮、少及、少此、少あり、少玉、少極、少變、少切、少軟、少略、少抄、少列、少之、
友

少之、少表、少多、少招、少と、少存、少且、少當、少國、少着、少富、少穀、少之、少彼、少と、少白、少倫
飲食、少之、少他、少諸、少難、少費、少於、少當、少政府、少之、少引、少受
少賄、少之、少為、少宮、少内、少者、少友、少負、少人、少為、少多、少亦、少也、少少、少張、少始、少終
少附、少係、少存、少且、少帝、少宮、少あり、少仕、少丁、少様、少と、少あり、少人、少若、少使
少席、少より、少少、少附、少係、少出入、少陪、少段、少為、少法、少長、少招、少と、少存、少少、
少之、少あり、少右、少亦、少と、少少、少國、少在、少為、少當、少國、少公、少使、少と、少少、
少接、少接、少あり、少少、少後、少多、少存、少多、少と、少當、少國、少滿、少為、少少、
少之、少あり、少十、少五、少の、少信、少と、少少、少是、少及、少逢、少と、少於、少合、少少、
少他、少國、少之、少巡、少聘、少と、少法、少心、少法、少と、少少、
少自、少年、少養、少為、少業、少多、少國、少之、少抄、少列、少鄭、少重、少之、少務、少多、
父

白屏園より湯見へ養皇宮あり夕鑑
 鑑わし招待ありをみ招待コロ子ル、ジエー
 新佐日公使ゴロート等み海浜有る
 園皇多後他ありき付湯見へ公皇宮
 ントく招待き多し得て西親王
フランス、アレクサン
 プリス、マデリアキ
 あり夕鑑へ官有るは是亦招待四日
 本公使ポルスブルク及四日本領るのファンドルク
 周旋あり付附係世話ありき
 何れも宮館へ多當ありき多後ありき
 長春ありき新公使相命は國は外ありき

付兩國新公使到着の上より邊り合是亦
 うち招待と下交存あり
 向存兩國政府引合へ別帝高信書より義
 ありき交を存ありき馬園傍筆あり付
 妙方の美出書存を佛園回振り座あり別
 寫字をありき右座書も書話書へ通達
 美紙より積り座ありき未夕ありき
 ありき功ありき進りありき
 此白川宮極ありき使當府より滞在し
 ありき西國ありき

其籍中々多異其文部省理事官隨以也
藤徳之令お和郎兩人之發後島公使中澄徳
之勅之外務之等書記生ヲ以伯林府公使敏
勅仕中澄和郎多々之通事官差免巴里
滞在中付其在右々回府在洋字授持多入
用之該較高公使方は單合裁裁之々在候
取年一多々之候委曲之回中々部之合合居候
多々付回人小口守之令其外務省之部者
此沙法之下發在候
右葉留學生山ハ飯田吉次郎多々之令其年

留學之在普通學科之既々大學之科者々
登り自世工學專之之備業發發所志之該大々
見込也之々之官之部者派出留學生中付毎
年千少々之支給後積以座者向論該高公使
中澄和郎一其發之座者之令其部之令其工
部者有之沙法之下發在候
右葉佛之在澄在候中澄之令其座者之

尚以自存自三國獨見之席多續其明列也
之通リ以座者

冊書 湯見之書 口上答詞待寫 今以汝使、讓

第廿四節

明治六年三月廿日

兼白書系伯林

心公信致給上書先以

聖上益々機嫌克 歸御之為渡海富平寧列位

在少勵精少事機之有遠願世以之存存其功之

部職 丁酉年三月在職在在在在在在在在在在在在

先使中多事通當國體聘之々々續亦海島付

今也下夕當府出之魚國伯德堡之在執文當國

帝獨見之帝雙方以假亦當政府引合換列

帝神文並為活書之也西義家之下意也

四十四編 公信 爲子 回 報 中 孝 允 利 通 師 朝 之
任 系

勅 修 之 致 南 義 任 事 昂 利 通 養 之 令 世 下 世 許 出
之 師 進 之 上 部 便 船 次 多 師 船 任 事 之 令
孝 允 養 之 一 應 尊 命 也 候 師 一 月 五 紙 夫 之 一
積 務 之 離 之 師 進 船 次 之 令 國 巡 歷 師 朝 任 事
志 形 之 令 官 之 執 奏 之 下 度 之 委 曲 之 令 情
利 通 師 朝 之 節 一 年 上 度 之 令 候 以 義 之 令
上 下 之 候 也 也

回 報 中 之 紙 形 解 國 上 之 令 候 爲 房 之 務 之 令
渡 船 之 候 未 承 之 令 知 氏 轉 記 之 令 早 申
候 釋 及 之 候 未 承 之 令 義 之 令 候
英 國 留 學 生 野 口 富 彦 養 之 候 子 部 省 理 事
官 之 令 附 寄 系 方 法 之 候 備 書 振 中 渡 船 之 令 候
養 政 之 令 爲 著 十 三 等 出 仕 之 令 以 日 省 派 出
之 官 員 滋 澤 春 他 附 屬 回 所 調 方 之 候 考 中 候 候
世 身 員 大 務 之 令 部 兩 省 之 令 以 沙 石 上 下 度 之 令 候 爲
學 之 令 生 況 之 令 般 一 附 理 事 之 令 附 屬 通 函 或 之 令 候
方 亦 之 令 渡 船 之 令 之 令 官 之 候 限 之 令 母 方 於 之 令 候 中

船車之費、昨日賄乞也、水濱より、
以、
先、
下、
右、
左、
右

第廿五編

明治六年 四月十二日

魯京被得堡

以上書抄、抄上、先、以

至、上、卷、以、機、操、克、降、御、与、在、各、位、金、口、廟、精

以、東、織、海、宮、平、寧、之、宗、東、望、加、額、任、以、吟、部、候

百、年、矣、其、後、亦、在、以、安、神、上、古、為、矣

第廿四編 便中、各、累、步、通、去、日、廿、日、著、系、列、其

卷、初、兩、日、之、事、後、各、藩、世、の、多、當、府、為、著、本

月、云、乃、第、一、所、國、希、通、見、國、書、持、筆、之、武、也

亦、漸、引、續、之、子、傳、皇、族、歷、陽、多、務、卿、終、末

亦夫之為也海今日操兵備而為之國帝國兵
之序昭乞賜見也早也自有明十甲之內當所
發報丁持國京上赴者之也中在留中
帝宮於之午餐多宜之福五之且旅富諸德
一之當政府之也杜拂仕者養何事之也丁寧之也
之也全當國皇子之國之也誠也帝持別正
懇遇之也也交錄之也載訪君也指子之也見愛
中其備見之也師雙方以證也家帝之也通之也
也且當の儀式之也着府備見中入也帝別冊
刊本或部案之也美鐵在之也依之也施之也也之也付

即平書美進子也當の也景況書在之也進
也の委曲在之也也美在之也下段也
分整御引合之也帝亦後系約政正之也付之也國政
府之也ハハ何之也目的也中其也即為合也書在之也
分也中其也付即之也帝英文之也通書在之也美
也星也一也在之也當政府の也必也國在之也代人
方也書送之也仕之也之也付牙盾也之也指之也也
守美進中其也當の也證也之也也一也接接の也
之也證也也書在之也入也之也之也也也也也也
引合之也也也之也之也付之也也美進

ありて

孝允等先任多願等並當國は用事海峽
上より日出て了途中より立寄る路次各園巡
歴仰頼仕立積り右の随従一筆書化何礼之
并に在る中一修飾一附屬之雇入者来入ハバルソ
百拜頼多るの事

當所在當學生釋園知士族市川文告並出立為
多務省より申立之詔も之を尋當甲日下修飾
附屬中付呂連帰頼長積り之を在る中
此の當甲書紀並一月墨根万二千拜

上下其の事世安里多務右務省省立沙法
下修飾

法書其他各園の教員或は自身以て為字在
其の處に學費差送り等々此の生計も
美支在將生中一々學制進歩見込に在る
之の亦少く生迎ふ亦在法書公使教高尙信
引受来々浦法現今去留に決着法書資給
之方法も亦斗一其積り度長法書美尙宿迎
之の亦少く目下法給との千高後程の用
之者尙信より申出立在るの實多務省

少納言侍席一所用重之方被嘆月一此勝多
少之少出舞之も在成多之程世後應不勝
因之七ヶ國之少重者有夫是目的も付兼有付
理今之所公使館の用之内に以差向海給方
有斗一量長指中終至者其在侍席一程其之
都合見事一取留者長指之も了事成之も其後
右等之少の情篤白口浪意之も一人の事有之
少下之重少重長指少長右少同人より在曲中出也
了の事有在長指程其長中進至者其少事務大
善文部之者も無間至者其少事重之も其後
仕長侍席長

仕長侍席長

普急列拜府之制之公使館之重至者付右の事
仕構亦少長之も其重者其美支少額其支
候多の公使の中其長之右長美向長之少の付使
席は用重之内より千二百兩之程其程其長中長支
少事務長侍席両者も少少法其も其長存長
其四十七編目之編之公信並附信當白少當
府糾着引候其其四十年編之六編世十二日夜其
着何事も其見事一其在四編中一少額之
件も其省定額重之付之も其後其其少事

津長之任出系之波損亦佐野常民澳仔在
為之候と命博覧會出のとの候先出航と
物川右海軍少将とも日比之命日昇儀官
米國不の視察と出之性途取沙口差御長御也
義家淡世在亦官員何色も澳系とと出候
之波に高しと山國と出候とも視とと兼り
与居指在在候

具視察後出仕と書名也と一様義仕候
津三任定家嘉島國在番主推公候と命也
二月十日出系四十六船中一と申御之と在當國

為着早々、當政府ととハ既、義家御一居夫是
問合とホとと、書先文中、全書通公信和着
日着と付何とも挨拶と書懸と申り、と座着
招方多し公候とと、延着と懸り座着の迎來
ハ以電信少報答とと、亦知母方出候國系
為着と座し、と申御と通以電信少報答
也招と候ハ
各國出候と懸り、自候高公候と、電信義家
世方也のとも、と申文、と時日延推と致招と答
候列國と懸り、居候也招と候也

右左少将中進少将以多勢稱公信之口報書也
抄本

第廿六卷

明治六年五月一日 卷長 早堡

以公信抄本上先以

石上蓋少攝燥克 臨御之在海富平宮之

位跡少加精少筆綫之長在聖加額仕吏部後

一月多事一筆綫在少海神之下座矣

廿五卷)公信中全在通去月十四日東京奉程

日十五日夜日周領コロイス於多本戸考允及臨仍

いふのふあふまふり十の丁持周多ふ物を

十の物見本海日夕皇宮より多寡之物を

大正

同世了多務卿南會使命之詔禮部請同世了
 同世了多務卿南會使命之詔禮部請同世了
 同世了多務卿南會使命之詔禮部請同世了
 同世了多務卿南會使命之詔禮部請同世了
 同世了多務卿南會使命之詔禮部請同世了
 同世了多務卿南會使命之詔禮部請同世了
 同世了多務卿南會使命之詔禮部請同世了
 同世了多務卿南會使命之詔禮部請同世了
 同世了多務卿南會使命之詔禮部請同世了
 同世了多務卿南會使命之詔禮部請同世了

多務卿南會使命之詔禮部請同世了
 多務卿南會使命之詔禮部請同世了
 多務卿南會使命之詔禮部請同世了
 多務卿南會使命之詔禮部請同世了
 多務卿南會使命之詔禮部請同世了
 多務卿南會使命之詔禮部請同世了
 多務卿南會使命之詔禮部請同世了
 多務卿南會使命之詔禮部請同世了
 多務卿南會使命之詔禮部請同世了
 多務卿南會使命之詔禮部請同世了

大
 小

行旅も不安心の同姓と云々、葡國牙國は
 然るも自他海路と云々、ふ中夜と云々、
 友と云々、自他と云々、葡國牙國は
 巴葡葡牙と云々、葡國牙國は
 在り、存り、合と云々、
 信部常氏持余、葡國牙國は
 會出張右負、葡國牙國は
 札と云々、止と云々、
 葡國牙國は

葡國牙國は、ブルクス、葡國牙國は
 葡國牙國は、葡國牙國は
 葡國牙國は、葡國牙國は
 葡國牙國は、葡國牙國は
 葡國牙國は、葡國牙國は
 葡國牙國は、葡國牙國は
 葡國牙國は、葡國牙國は
 葡國牙國は、葡國牙國は
 葡國牙國は、葡國牙國は
 葡國牙國は、葡國牙國は
 葡國牙國は、葡國牙國は
 葡國牙國は、葡國牙國は

第廿七號

明治三年五月十九日

伊奈羅馬

以公信誠為上故先以

不王上及少穢嫌免 陳御との在海富中守等

位全少轉勵少穢嫌との余等途頃長 郡邊との

一月多矣等穢嫌在少海神 上下等

弟廿六號 公信中在少通 當月方伊國領佛

即接西和着日所との止國在番當國全權工ム

トドラス一 西今當二十日人 同迄日國初羅馬

府少就日十甲 福見國書持呈等歸 古海印

大

夕皇宮の如く夕宮に饗せられし時、賜見せ給ふ
方は往時常の儀に非ざりし中進言書も亦
其の旨無中以引信事、世に當り務卿を
會候命に給信書いり、故右の如き勅語書を
此等事の上を慮り世に与へ給ひ、其旨見せ給ふ
當國君は葡萄牙國に赴き心遣ひ、其國君
に付与し共信事の中進言書致し、其旨見せ給ふ
當國君は其旨を筆紙に記し、其旨見せ給ふ
事無し、其旨見せ給ふ、其旨見せ給ふ、其旨見せ給ふ
當國政府の如き事、其旨見せ給ふ、其旨見せ給ふ、其旨見せ給ふ

祝賀之正圖書捧呈之儀、當國公使より
系約降心、付与し中進言書、其旨見せ給ふ
事、其旨見せ給ふ、其旨見せ給ふ、其旨見せ給ふ
當國政府の如き事、其旨見せ給ふ、其旨見せ給ふ、其旨見せ給ふ
務卿より右の如き事、其旨見せ給ふ、其旨見せ給ふ、其旨見せ給ふ
約降心、付与し中進言書、其旨見せ給ふ、其旨見せ給ふ、其旨見せ給ふ
懇請も亦、其旨見せ給ふ、其旨見せ給ふ、其旨見せ給ふ、其旨見せ給ふ
神、其旨見せ給ふ、其旨見せ給ふ、其旨見せ給ふ、其旨見せ給ふ
中進言書、其旨見せ給ふ、其旨見せ給ふ、其旨見せ給ふ、其旨見せ給ふ
當國海軍の中、旅舎、其旨見せ給ふ、其旨見せ給ふ、其旨見せ給ふ、其旨見せ給ふ

大正
山

敬

其得也も接待あり。若公使は、外ヨリ人
 日命一、葉月、日爲り。一、周皇孫皇族、川
 幸、也、惣、御下、宣、待、因、之、以、座、官、改、周、皇、孫
 自、公、背、親、主、上、之、上、等、上、度、惠、官、始、之、也、同
 中、官、之、上、等、上、度、方、之、中、度、美、新、中、之、何、意、也、鄰
 後、陽、朝、之、如、齋、陽、一、等、覽、其、心、以、之、座、官
 陸、軍、方、理、事、官、山、田、原、美、大、修、造、外、海
 志、勝、野、右、衛、門、督、當、月、十、日、發、輪、之、佛、部、船
 可以、陽、朝、法、也、本、日、孝、允、也、其、月、公、以、馬
 塞、里、茂、輪、之、積、以、座、官

第五千號、公信當十四、本府、知、着、控、見、秘、喜
 因、傳、爲、未、着、茶、刺、高、也、務、卿、法、因、日、也
 大、使、之、美、色、軍、艦、爲、隻、獲、送、路、之、解、價、之、級
 之、他、島、津、長、二、位、登、名、也、美、色、相、美、色、也
 以、爲、一、大、使、失、火、之、電、報、此、十、日、美、着、一、同、驚、愕
 也、以
 美、上、之、事、始、何、事、也、而、之、在、美、茲、安、心、加、額、仕
 在、此、泥、中、之、美、色、且、五、十、號、公、信、以、報、美、事、也、也
 以、爲、美、也

尚以陽典於府為著之節一覽報了之
及極其之の誤失其趣を指し以下後世
其既多中進部也

第廿二編

明治六年六月一日

存左里勿尼士埠

以公信訪於上並先以

事上等の儀歸克 德御との在る位並口書

勸以事儀 違領之氣事存於次之 尚候 一同多矣

在職其在仕候以蒙懐上下 同多矣

先便世七編の以存左里勿尼士埠

諸藩藩員止申候より方中を呈出候事

之候より存左里勿尼士埠

之候今口事並方一同中終摺知利之方を先

多一羅馬の島に存國の各地に於て
當海に出立点に維納に入道心持て
存空望國皇をり

多上の教皇は自分畫像先使部職を齋師
の積中を墨畫せ給り余り筆張り
り部船便に給一宮内省に向り差出せ
新著古御書に古抄書多て於宮内省に
法に下る也

多五平之稱公信當地多居手四開人
為人の正云ナリ上書

當人の正云ナリ上書
正徳平氏より國君に向ふ上書
開化の國より法を傳ふる書
寛政の施す上書
中車より法を傳ふる書
島より刊行の書
此書は
少撰抄の書
第一巻
越人

特殊に以て物置に在るものありて、其の
沙汰之類 畢陳を、あつて在り、此の如く多くを授
け居るものあり、其の類、多許に、其の類、其の類、
欠之類、其の類、其の類、其の類、其の類、其の類、
其の類、其の類、其の類、其の類、其の類、其の類、

丁桂園電信の多物の改正、其の類、其の類、其の類、
其の類、其の類、其の類、其の類、其の類、其の類、
其の類、其の類、其の類、其の類、其の類、其の類、
其の類、其の類、其の類、其の類、其の類、其の類、
其の類、其の類、其の類、其の類、其の類、其の類、

其の類、其の類、其の類、其の類、其の類、其の類、
其の類、其の類、其の類、其の類、其の類、其の類、

其の類、其の類、其の類、其の類、其の類、其の類、
其の類、其の類、其の類、其の類、其の類、其の類、
其の類、其の類、其の類、其の類、其の類、其の類、
其の類、其の類、其の類、其の類、其の類、其の類、
其の類、其の類、其の類、其の類、其の類、其の類、
其の類、其の類、其の類、其の類、其の類、其の類、
其の類、其の類、其の類、其の類、其の類、其の類、
其の類、其の類、其の類、其の類、其の類、其の類、
其の類、其の類、其の類、其の類、其の類、其の類、
其の類、其の類、其の類、其の類、其の類、其の類、
其の類、其の類、其の類、其の類、其の類、其の類、
其の類、其の類、其の類、其の類、其の類、其の類、

右之公同公信申、口申致之、条件、逐一詳述
仕、

右之羅馬書、已承、今況中、各、以、五十一、編、

少、數、過、如、世、以、座、立、
世、公、信、ハ、勿、后、士、終、多、中、山、德、第、
三、差、之、方、中、信、之、証、

第廿九編

明治三年七月

瑞西日石瓦府

以公信、新、於、上、世、先、以、

至、上、多、少、據、據、克、
信、全、少、勸、轉、以、在、續、之、案、達、頌、世、乃、口、以、座、立、部、

續、一、因、多、少、在、續、在、口、案、據、上、下、乃、多、少、
世、ハ、據、公、信、申、口、進、世、通、世、月、二、乃、存、在、里、國、勿、

度、士、陣、波、程、聖、三、乃、換、固、維、納、府、沙、着、回、了、

同、國、皇、福、氣、幽、書、年、呈、之、式、古、海、同、久、國、皇、
難、宮、如、少、乃、宴、之、初、之、在、亦、礼、式、自、各、國、

大同少異別無なりを余も無きるは若く
長岡十二日同少務卿 エトアンタラジ一面會體
貴格之類を子帝之通を多し委曲を多し
知多し大同十日本府出多世日瑞西總府到
着世万回國大統領領獨見國書在皇世四夕
寔之招多し世王。大統領領而令美話之類是
又別帝之書多し以集多し之類。同世万回府
兼皇日居府と書紙中長兩國在留中懸
切之待遇多し。澳國、之ハ口國在留公使ハロ
カリツと瑞西、之ハ口國在留之然領事ハレウ
カ

その他官、之ハ接待會中付給給所為内
施の致瑞西、之ハ口國中各府巡覽おも
致多し。丁寧多し。之ハ口國在留
葡萄酒園巡遊之類、之ハ口國在留
及海梗塞種、之ハ口國在留
久保利通瑞西、之ハ口國在留
及積中活常況、之ハ口國在留
進至世通、之ハ口國在留
葡萄酒園公使、之ハ口國在留
美支、之ハ口國在留

大正
官

考... 見... 報... 乃... 著... 國... 年... 以... 僅... 將... 昂... 何...
考... 見... 報... 乃... 著... 國... 年... 以... 僅... 將... 昂... 何...
考... 見... 報... 乃... 著... 國... 年... 以... 僅... 將... 昂... 何...

今... 桂... 遠... 買... 以... 小...
今... 桂... 遠... 買... 以... 小...
今... 桂... 遠... 買... 以... 小...

邦に移築三葉子中身念は座を百世又彫琢を
見込とて人而して能く存せざるも兼て中修至
歩を交日人より中後見込とて交り帝室に通
中出長絶多る家文と次勇篤と由詮誠多る意以
用人後程家と作渡世皇意貫徹世報と兼後
蒙と世に控日人正充分と重額と渡り成成
將又程費由據編との博覧會列品を斗正
之々能るより関涉も此方より能く見込とて世
毎に跨り日人より中後見込とて交り帝室に通
方より交り著由和控口指揮口由中長控仕交存存

正徳博覧會列品を斗正とて中決着中由兼
現今將系と兼因際由兼仕交り先張引とり
中より交り部續天 寶殿仕世百右重額と増方
兼同人兼制家相海と基キ中出出つて由と渡り
由兼者指涉交存存と兼余と兼形多実地小
兼年無儀中上由交りと由皇世百篤と由評儀と中
兼
兼五年二編と三編と次と公信惟制在為伴兼
兼兼世編便り中由兼件と由兼志と由兼
兼倉り兼野兼と賢と口口因皇嗣と丁報

及後海軍長江藩大木御宗議上命也茲
其他以中額之宗正之梓義以多一也

入江文部宗本貞次郎多付以達之額夫之
達中長女貞次郎多ハ帰朝之高而呂達之

必以之由史也

右之全状中多分以五千之之額多信之由額券
必世也

正院第一編

大正洋郵船便之由一筆録也上史

一ノ巻